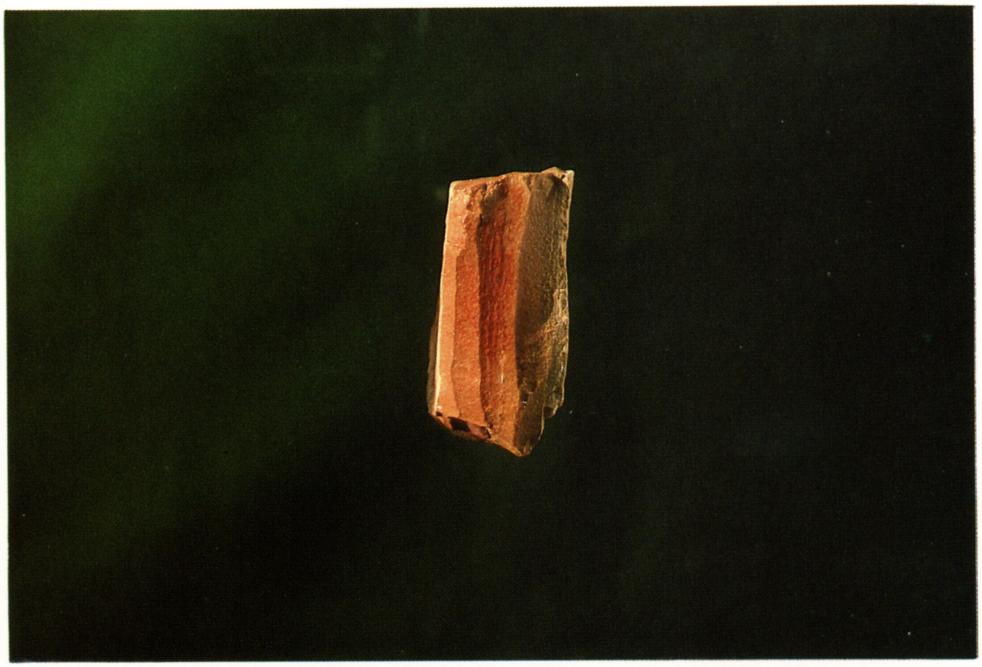
鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(65)

北薩・伊佐地区埋蔵文化財
分布調査報告書（Ⅱ）

平成４年度

１９９３年3月

鹿児島県教育委員会



池　頭　遺　跡　（細石核）

（左）　池　頭　遺　跡　（三稜尖頭器）
（右）　豆　迫　遺　跡　（台形石器）

序　　文

北薩・伊佐・出水地区（一部日置を含む）の埋蔵文化財分布調査については，昭和36年度に全県的な調査の一環として実施されています。

現在，この地区においては，西回り高速自動車道の建設，九州新幹線鹿児島ルートの建設をはじめ，農業基盤整備事業等の諸開発事業が計画されており，これら開発事業と埋蔵文化財の保護との調整を図るうえで，より詳細な埋蔵文化財の分布状況の把握が必要となってきています。

このため，県教育委員会では，平成３年度から９か年計画で同地区の埋蔵文化財分布調査を実施することとしております。平成３年度には，串木野市，市来町，東市来町の１市２町を対象に，引き続いて，平成４年度には，樋脇町，東郷町，鶴田町の３町を対象に分布調査を実施しました。

本書は，平成４年度の調査結果をとりまとめたものであり，この地域の埋蔵文化財の保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに，この調査に御協力をいただいた関係町教育委員会並びに関係者に心から感謝の意を表します。

平成５年３月

鹿児島県教育委員会
教育長　伊牟田　茂　夫

例　　言

1. 本書は，平成４年度に実施した北薩・伊佐地区埋蔵文化財公布調査における「北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（II））」である。
2. 本年度は，樋脇町，東郷町，鶴田町の３町を対象とした。田畑等の一筆毎の悉皆調査を基本にして，必要に応じて聞き取り調査を実施した。
3. 調査にあたっては，各町作成の１万分の１地図を利用した。
4. 本報告書掲載の遺跡写真撮影及び遺物実測は青崎・堂込が行なった。
5. 執筆分担は，下記のとおりである。

   第１章・第２章２・３節……青崎

   第２章１節……堂込
6. 付図中の遺跡地図・地名表は，黒刷り－周知の遺跡，赤刷り－新発見の遺跡のものである。
7. 編集は，青崎，堂込が行なった。

目　　次

序　文
例　言
目　次
第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
　第３節　調査の経過（日誌抄） …… 2
第２章　調査報告 …… 4
　第１節　樋脇町 …… 4
　第２節　東郷町 …… 27
　第３節　鶴田町 …… 35

表　目　次

第１表　樋脇町遺跡地名表 (1) …… 5
第２表　樋脇町遺跡地名表 (2) …… 6
第３表　樋脇町遺跡地名表 (3) …… 7
第４表　東郷町遺跡地名表 (1) …… 27
第５表　鶴田町遺跡地名表 (1) …… 35
第６表　鶴田町地名表名表 (2) …… 36

挿　図　目　次

付　図　樋脇町・東郷町・鶴田町の遺跡地図
第１図　樋脇町の遺物(1)〈水流遺跡～榎木水流遺跡の遺物〉 …… 8
第２図　樋脇町の遺物(2)〈榎木水流遺跡～池頭遺跡の遺物〉 ……13
第３図　樋脇町の遺物(3)〈池頭遺跡の遺物〉 ……14

挿　図　目　次

第４図　樋脇町の遺物(4)〈池頭遺跡～西之原遺跡の遺物〉……15
第５図　樋脇町の遺物(5)〈末寺原遺跡～豆迫遺跡の遺物〉……23
第６図　東郷町の遺物(1)〈小田・小田原遺跡～宮ケ原遺跡の遺物〉……29
第７図　東郷町の遺物(2)〈笹原遺跡～城ケ原Ｂ遺跡の遺物〉……30
第８図　東郷町の遺物(3)〈大牟礼遺跡～木場遺跡の遺物〉……33
第９図　鶴田町の遺物(1)〈上願寺遺跡～樋山遺跡の遺物〉……38
第10図　鶴田町の遺物(2)〈小松原Ｂ遺跡の遺物〉……39
第11図　鶴田町の遺物(3)〈焼堂遺跡～永牟田遺跡の遺物〉……41
第12図　鶴田町の遺物(4)〈政所Ａ遺跡～頭無遺跡の遺物〉……44
第13図　鶴田町の遺物(5)〈木場田遺跡～枕辺遺跡の遺物〉……47

図　版　目　次

図版 1　桶脇町水流遺跡(1)～柳原Ｃ遺跡(10)の現況……9
図版 2　樋脇町上礼地原Ａ遺跡(11)～岩元原Ａ遺跡(18)の現況……12
図版 3　樋脇町岩元原Ｂ遺跡(19)～沢渡Ｂ遺跡(28)の現況……17
図版 4　樋脇町沢渡Ｃ遺跡(29)～上原元遺跡(36)の現況……18
図版 5　樋脇町池ノ迫遺跡(37)～現王Ａ遺跡(44)の現況……19
図版 6　樋脇町現王Ｂ遺跡(45)～集ケ段遺跡(52)の現況……24
図版 7　樋脇町下井手遺跡(53)～豆迫遺跡(58)の現況……25
図版 8　東郷町内浦遺跡(1)～坂之下遺跡(8)の現況……31
図版 9　東郷町川畑遺跡(9)・城ケ原Ａ遺跡(10)の現況……33
図版10　東郷町城ケ原Ｂ遺跡(11)～木場遺跡(18)の現況……34
図版11　鶴田町原田前遺跡(1)～樋山遺跡(8)の現況……40
図版12　鶴田町小松原Ａ遺跡(9)～水天向遺跡(16)の現況……42
図版13　鶴田町前畠遺跡(17)～木場田遺跡(24)の現況……45
図版14　鶴田町東原遺跡(25)～枕辺遺跡(32)の現況……48

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は，北薩・伊佐地区の４市13町４村（串木野市・阿久根市・出水市・大口市・東市来町・市来町・樋脇町・東郷町・鶴田町・宮之城町・薩摩町・礼答院町・里村・上甑村・鹿島村・高尾野町・長島町・東町・野田町・菱刈町）について埋蔵文化財分布調査を平成３年度から11年度にかけて計画した。

これは，北薩・伊佐地区の諸開発計画の施行に際して埋蔵文化財保護と開発事業との調整のための資料を得ることを目的としたものである。

調査にあたっては，文化庁全国遺跡分布調査要項（昭和46年４月）に準拠し，埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆ごとの悉皆調査を行い，必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施することとした。また，その結果について分布図・報告書を作成し関係機関に配布する。

平成４年度は，樋脇町・東郷町・鶴田町の３町を対象にして，平成４年８月３日から９月10日にかけて分布調査を実施した。

第２節　調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育長	伊牟田茂夫
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課長	向山勝貞
調査企画担当者	〃	課長補佐	梅北一人
	〃	主任文化財主事兼埋蔵文化財係長	吉元正幸
調査担当者	〃	文化財主事	青崎和憲
	〃	文化財研究員	堂込秀人
調査事務担当者	〃	主幹兼企画文化係長	濱崎琢也
	〃	主査	枇杷雄二

調査にあたっては北薩教育事務所をはじめ，樋脇町教育委員会，東郷町教育委員会，鶴田町教育委員会の協力を得た。

なお，調査事務所として樋脇町立体育館の一室を提供していただいた。

第２節　（日誌抄）

８月３日(月)　北薩教育事務所，樋脇町教育委員会と分布調査についての打ち合せ，後，倉野・塔之原地区調査。樋脇町内の周知遺跡台帳と照合した。遺物散布地７か所を発見した。

４日(火)　倉野・塔之原地区を調査し，遺物散布地９か所を発見した。榎木水流遺跡は現在ごぼう畑となっているが，耕作中に独鈷石が発見され地主の中島四男氏より借用した。当地区はほ場整備事業がすでに完了していた。樋脇町遺跡名文化財一集と照合し，記入漏れを確認した。

５日(水)　塔之原・村子田地区を調査し，遺物散布地７か所を発見した。特に，池頭遺跡からは，細石刃・細石核や成川式土器多数を採集した。

７日(金)　塔之原・西之原・前床・鍋之原地区を調査し，遺物散布地11か所を発見した。

11日(火)　塔之原・永田・市比野地区を調査し，遺物散布地12か所を発見した。野稲原遺跡は，鹿村ヶ迫遺跡に隣接することから同一遺跡として一括する必要があると思われる。

12日(水)　大平・藤本・野下・阿母地区を調査し，遺物散布地５か所を発見した。なお，当地区は水田地帯で現状での分布調査は困難であった。

17日(月)　野久平・原・小野・金貝・牟礼・祢礼・北地区を調査し，遺物散布地６か所を発見した。

18日(火)　樋脇町で新たに発見された54か所の遺跡の写真撮影を行なった。

19日(水)　午前中は，遺跡地の写真撮影，午後は，資料，地図整理及び遺物選別作業。本日をもって樋脇町の遺跡分布調査は終了した。

20日(木)　本日から，東郷町での遺跡分布調査開始。東郷町教育委員会事務局へあいさつ。宇都四美氏案内により斧淵地区（三ケ郷，荒川内，五社下，頭無，司野），南瀬（南瀬下，城ケ原）地区を調査し，11か所で遺物散布地を発見した。なお，小田・小田原遺跡で細石核が採集され，東郷町では初めての先土器時代の遺跡といえる。

東郷町は，地場産業として果樹栽培，特にブドウのハウス栽培が盛んで，調査日程がブドウの収穫期と重なったことから，当地への立ち入りが難しく，充分な調査が出来なかった。

21日(金)　昨日の斧淵・南瀬地区の補充と新たに山田地区を調査し，遺物散布地５か所を発見した。大牟礼遺跡はゴルフ場建設予定地内にあり，平成元年度に分布調査済みの場所であるが，遺物散布の範囲は広がるものと思われる。前原遺跡は，中山間地域農村活性化事業地区で，道路，排水溝の整備中であつた。現状では出土遺物は無く，遺物包含層は無かつた。諏訪ヶ原遺跡は，町文化財指定「香積寺跡」地と重なる。

27日(木)　藤川・鳥丸地区を調査し，遺物散布地２か所を発見した。先日の山田地区と同様当地区は山林や小谷に開かれた水田が営まれ，地形的にも遺跡が立地する環境には恵まれていない。

28日(金)　東郷町内の遺跡分布調査における新発見の遺物散布地，計18か所の現地写真撮影と郷土史に記載されている遺物採集場所の確認を行なつたが，該当地は山林及び荒地となつており確認されなかつた。その後，資料整理と台帳作成を行ない，東郷町の調査は，本日で終了した。

31日(月)　本日より鶴田町の遺跡分布調査開始。鶴田町教育委員会事務局へあいさつ及び打ち合せの後，關正勝社会教育指導員の案内で柏原，京塚原地区の調査を実施した。その結果，11か所を発見した。当地区は，川内川の河岸段丘にあたり，周知の遺跡が点在している。小松原Ｂ遺跡からは，細石器が発見された。なお，当地は，地下式板石積墓の「小松原古墳群」が隣接している。

9月1日(火)　上向・甫立口・紫尾・種子田地区を調査し，遺物散布地８か所を発見した。

2日(水)　柏原・柳野・新田地区の調査で，遺物散布地８か所を発見した。

3日(木)　鶴田・大角・神子地区の調査で，遺物散布地４か所を発見した。上原遺跡は周知の「湯田原古墳」がある。広範囲にわたつて遺物が散布しており，立地条件も良く保存状態も良好と思われる。

4日(金)　大平・上場地区の調査。大平地区で遺物散布地を発見した。なお，上場地区は谷に形成された水田地帯であり，調査は困難であつた。午後は，新たに発見された一部の遺跡についての現地写真撮影を行なつた。

7日(月)　遺跡の写真撮影と新たに発見した遺跡地の現地確認のため，町教委關正勝社会教育指導員を現地に案内した。

8日(火)　新たに発見した遺跡地の現地写真撮影及び資料等の整理。

10日(木)　東郷町で新たに発見した遺跡地を町教委との確認と共通理解を図るため，町教委社会教育課長，同文化財保護審議会委員を現地に案内。東郷町及び鶴田町教委へ調査終了のあいさつ。本日で分布調査を終了した。

平成４年12月７日から，県立埋蔵文化財センターで報告書作成作業を行なった。

第２章　調査報告

第１節　樋脇町

樋脇町は鹿児島県薩摩郡の中央部に位置し，南北に長く，西の川内平野と東の山地帯の祁答院地方の中間に当たる。川内川，樋脇川，市比野川の流れに沿って平野が開け，この平野の水田地帯とシラス台地上の畑地帯と町周縁部の山地帯からなる。大字は北から倉野・塔之原・市比野・藤本である。

１．水流遺跡（第１図－１，２・図版１）

川内川の南側河岸の標高15m前後の微高地に立地する。現況は畑地となつており，遺跡南側の水田部分は，平成４年度に農業基盤整備事業関係の確認調査で縄文時代晩期と中世の遺物が出土している。平成３年度に分布調査されて確認された遺跡であるが，今回遺跡範囲が広がつたために，改めて記載した。増水時には今日でも中洲状になる地域である。２の縄文時代晩期の突帯文の甕形土器と１の内黒土師器の底部のほか青磁片などを表採した。黒曜石の剥片も多く散在する。縄文時代から中世までの時期が混在している。

２．木下遺跡（第１図－３・図版１）

川内川の南側の標高40m弱の台地上に立地する。水流遺跡の南側にあたる。木下の逆修塔群（鎌倉時代末）の前面の畑地で，中世の野首城跡の城内にある。３などの土師器片を表採した。中世の遺跡である。

３．石塚遺跡（第１図－４，５・図版１）

川内川の南側の標高20数mの河岸段丘に立地する。表土層が薄く，川にも近いことから，良好な包含層は残存していない可能性もある。４，５の青磁片のほか，土師器片・黒曜石片が表採された。縄文時代と中世の遺跡である。

シラス台地地帯特有の標高60mの畑地地帯に柳原遺跡・下原遺跡・中原遺跡・上原遺跡などがあるが，遺跡は台地全体に広がるものと考えられる。

４．柳原遺跡（第１図－６・図版１）

台地の西側縁辺部を中心に遺物が散布している。西側の台地下は40mほど比高差があり，谷には小河川が流れている。６は土師器の取つ手の破片である。中世の遺跡である。

５．下原遺跡（第１図・図版１）

台地の東側に立地する。縄文土器片・内黒土師器片を表採した。縄文時代と中世の散布地である。

６．中原遺跡（第１図－７～10・図版１）

台地中央部に立地し，南側の上原遺跡とは，小さな谷で分かれる。７は土師器の口縁部の破片でヘラミガキされ，８，９は縄文土器片である。10は石斧の基部と考えられるが，敲打痕がほぼ全周に施される。縄文時代と中世の散布地である。

第１表 樋脇町遺跡地名表（１）

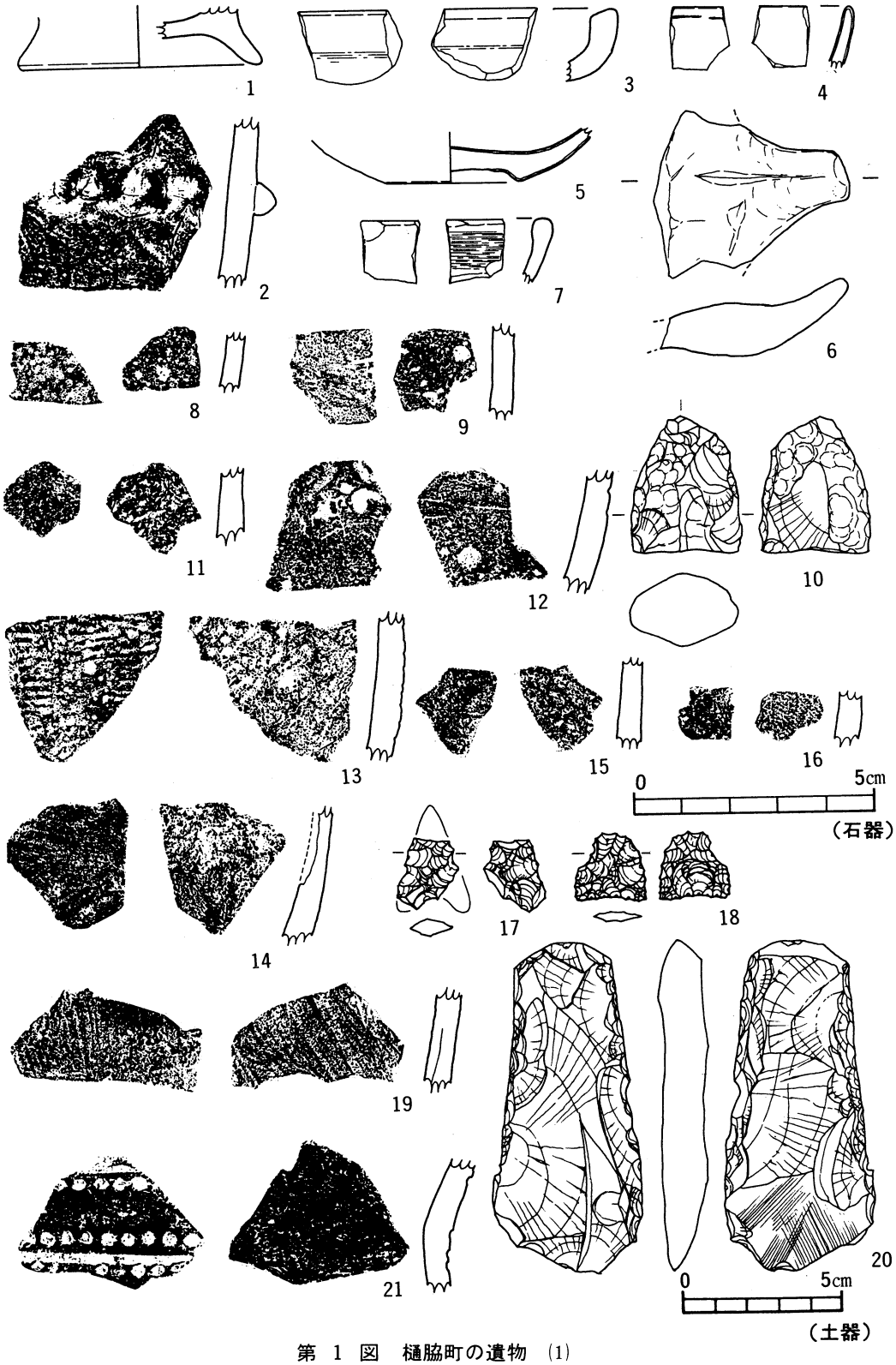
番号	遺　跡　名	所　在　地	地　形	時　　代	遺　　物	備　考
1	水流	樋脇町倉野	微高地	縄文・中世	黒曜石剥片・縄文晩期・内黒土師器片・青磁片・縄文土器片	Ｈ４年度調査周知の遺跡36－37
2	木下	〃　〃	台　地	奈良～平安	土師器片	
3	石塚	〃　〃	河　岸段　丘	中世	黒曜石剥片・青磁片・土師器片	
4	柳原	〃　〃	台　地	中世	土師器片	
5	下原	〃　〃	〃	縄文・中世	内黒土師器片・縄文土器片	
6	中原	〃　〃	〃	縄文	黒曜石剥片・縄文土器片・土師器片	
7	上原	〃　〃	〃	縄文・古墳	縄文土器片・須恵器片・土師器片	
8	柳原Ａ	〃　塔之原	〃	縄文	縄文土器片	
9	柳原Ｂ	〃　〃	〃	縄文・古墳	縄文土器片・石鏃・土師器片	
10	柳原Ｃ	〃　〃	〃	古墳	土師器片	
11	上祢地原Ａ	〃　〃	〃	縄文・中世	石鏃・内黒土器器片	
12	上祢地原Ｂ	〃　〃	〃	縄文・古墳	石斧・成川式土器	
13	榎木水流	〃　〃	〃	縄文	独鋸石・塞ノ神式土器・並木式土器片	
14	上修理田	〃　〃　祢地山	〃	縄文	縄文土器片・黒曜石剥片	
15	茶屋堀Ａ	〃　塔之原岩元	〃	古墳	成川式土器片	
16	茶屋堀Ｂ	〃　〃	〃	縄文・中世	土師器片・縄文土器片・黒曜石剥片	
17	茶屋堀Ｃ	〃　〃	〃	古墳	成川式土器片	
18	岩元原Ａ	〃　〃	〃	中世	土師器片	
19	岩元原Ｂ	〃　〃	〃	古墳	成川式土器片	
20	岩元原Ｃ	〃　〃	〃	古墳	〃	
21	池頭	〃　塔之原村子田	河　岸段　丘	旧石器・縄文・古墳	細石核・ポイント石匙・黒曜石剥片成川式土器片	周知の遺跡36－36
22	池頭Ａ	〃　〃	〃	〃	〃	
23	池頭Ｂ	〃　〃	〃	古墳	成川式土器片	
24	山畑	〃　〃	〃	〃	〃	
25	池尻	〃　塔之原岩下	台　地	古墳	成川式土器片・黒曜石剥片	

第２表 樋脇町遺跡地名表（２）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物	備考
26	中島	樋脇町塔之原樋樹	河岸段丘	中世	土師器片	
27	沢渡A	〃 〃 西之原	〃	縄文・古墳	成川式土器片・黒曜石剥片	
28	沢渡B	〃 〃	丘陵	縄文・古墳	石鏃・削器・黒曜石剥片・成川式土器片	
29	沢渡C	〃 〃	〃	古墳	〃	
30	西之原	〃 〃	河岸段丘	古墳	〃	
31	巣桓迫	〃 塔之原鍋原	台地	古墳	成川式土器片	
32	下原A	〃 〃	〃	古墳	〃	
33	下原B	〃 〃	〃	古墳	〃	
34	下原C	〃 〃	〃	古墳・中世	黒曜石剥片・土師器片・石鍋片	
35	末寺原	〃 〃	〃	縄文・古墳	石鏃・縄文土器片・土師器片	
36	上原元	〃 〃	台地縁辺	旧石器・縄文	台形石器・黒曜石剥片・縄文土器片	
37	池ノ迫	〃 〃	山裾	中世	青磁片・土師器片	
38	野稲原	〃 〃	樋脇川河岸	縄文・古墳	ポイント・成川式土器片	
39	神ノ原A	〃 市比野	台地	縄文	スクレイパー・縄文土器片	
40	神ノ原B	〃 〃	〃	縄文	黒曜石剥片・縄文土器片	
41	桂丸	〃 〃	〃	縄文・古墳	〃	
42	沢牟田	〃 塔之原	舌状台地	縄文	〃	周知の遺跡36－2 修正
43	迫ノ原	〃 〃	台地	縄文・古墳	石鏃・黒曜石剥片・縄文土器片（貝殻条痕）・成川式土器片	
44	現王A	〃 〃	〃	古墳	成川式土器片	
45	現王B	〃 〃	〃	縄文	石鏃・黒曜石剥片縄文土器片	
46	上ノ原	〃 〃	山裾	縄文・古墳	縄文土器片	
47	杉馬場	〃 〃	舌状台地	縄文	石鏃・黒曜石剥片・縄文土器片	
48	石坂	〃 市比野藤本	〃	縄文	(チャート)石匙・黒曜石剥片	

第３表 樋脇町遺跡地名表（３）

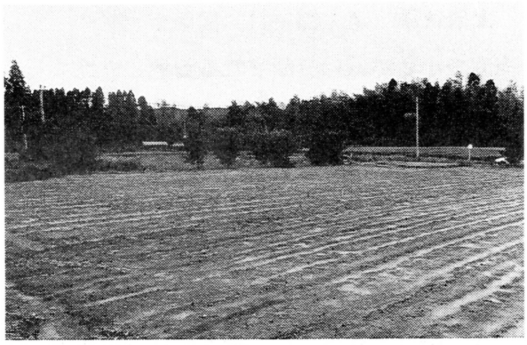
番号	遺　跡　名	所　在　地	地　形	時　　代	遺　　物	
49	岩下	樋脇町市比野藤本	舌　状 台　地	旧石器 ・縄文	黒曜石剥片・縄文土器片・剥片石器・細石刻	
50	松山Ａ	〃　　〃　宇都	台　地	縄文・古墳 ・中世	石鏃・黒曜石剥片・縄文土器片・成川式土器片・青磁片	
51	松山Ｂ	〃　　〃	〃	縄文・古墳	黒曜石剥片・縄文土器片	
52	集ヶ段	〃　　〃	〃	古墳	成川式土器片	
53	下井手	〃　　〃	河　岸 段　丘	旧石器 ・縄文	細石核・フレーク・縄文土器片	
54	久留主	〃　　〃	山　裾	縄文・古墳	黒曜石剥片・成川式土器片・縄文土器片	
55	小森	〃　塔之原	丘　陵	縄文・古墳 ・中世	〃 青磁片	
56	桜島	〃　　〃	〃	縄文	石鏃・黒曜石剥片・縄文土器片	
57	百木野段	〃　　〃	〃	縄文	黒曜石剥片・縄文土器片	
58	豆迫	〃　　〃	台　地 縁　辺	旧石器・ 縄文古墳	台形石器・縄文土器片・須恵・石匙	



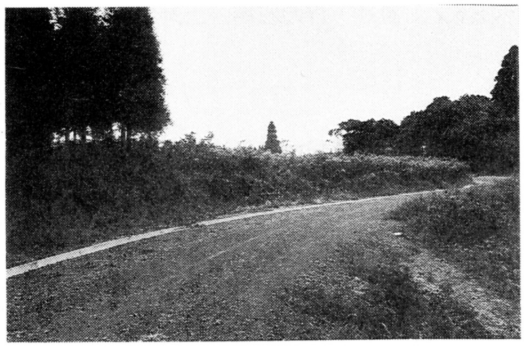
第 1 図　樋脇町の遺物 (1)

図版1

1　水流遺跡　（東から）



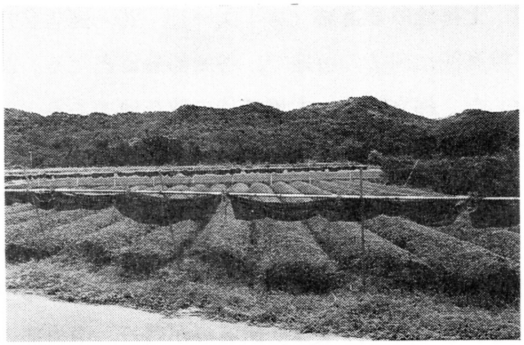
2　木下遺跡　（南から）



3　石塚遺跡　（東から）

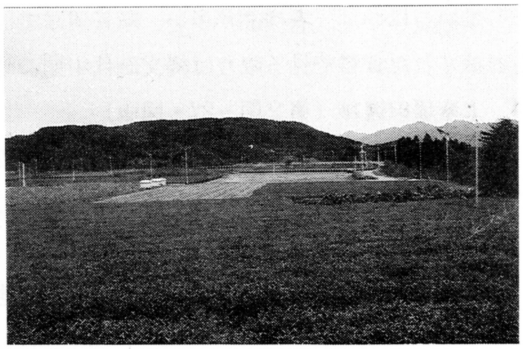
4．5　柳原遺跡・下原遺跡　（南から）

6　中　原　遺　跡　（北から）



7　上原遺跡　（東から）

8　柳原Ａ遺跡　（北から）



9．10　柳原Ｂ遺跡・柳原Ｃ遺跡（南から）

7．上原遺跡（第１図－11，図版１）

南北で小さい谷に分断される台地に立地する。須恵器片・土師器片のほか，11などの縄文土器片を採集した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

柳原Ａ遺跡から上祢地原Ｂ遺跡までは「祢地原」といわれる標高60～76mの台地にあり，すでに土地改良事業が行われ，広い区画の畑地帯となつている。

8．柳原Ａ遺跡（第１図－12，13・図版１）

標高約65mの北側に傾斜して行く台地部分にあり，西側に小河川が流れている。12，13，14の縄文土器片を表採した。縄文時代の散布地である。

9．柳原Ｂ遺跡（第１図－15，16，17・図版１）

標高約65mの台地の東側縁辺部にあたる。15，16の縄文土器片・17の石鏃，土師器片が表採された。縄文時代と古墳時代の散布地である。

10．柳原Ｃ遺跡（図版１）

標高約65mの台地の東側部分で，舌状につき出しており，比高差40mで下に水田地帯が広がる。土師器片を表採した。古墳時代の散布地である。

11．上祢地原Ａ遺跡（第１図－18・図版２）

標高80m弱の台地の中央部に位置し，段々畑の上から２段目で採集したが，最高所はシラスが表土層となつており，畑地造成時にかなりの削平がなされている。18の石鏃や内黒土師器片を表採した。縄文時代と中世の散布地である。

12．上祢地原Ｂ遺跡（第１図－19，20・図版２）

標高80m前後の台地で，谷頭部分にあたる。20の打製石斧と19の成川式土器の破片などを表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

13．榎木水流遺跡（第２図－21～24・図版２）

樋脇川を見下ろす標高70mの台地の南端部分で，北東側の道沿いに小さな谷が入つている。ゴボウ畑が中心で，深耕するためかなりの遺物が上がつている。21は塞ノ神式土器の破片で，22は並木式の土器片である。縄文時代早期から中期にかけての遺跡である。24は独鈷石と呼ばれているもので，全体に研磨痕が残り，中央部の屈曲する外側の部分には細かい敲打痕がみられる。両先端部は，打突による剥離痕がみられる。独鈷石は枕崎市鞍谷遺跡から発堀調査で出土しているほかは，表採品が多い。鞍谷遺跡では縄文時代中期の遺物と伴つていたが，ここでも表採された資料で見る限りは縄文時代中期の時期が妥当であろう。

14．上修理田遺跡（第２図－27・図版）

南側の樋脇川方向へ広がる谷頭にあたる標高82mの丘陵で，畑地として造成されている。26，27の縄文土器片と黒曜石を表採した。縄文時代の散布地である。

茶屋堀Ａ遺跡から岩元原Ｃ遺跡までのある台地は，樋脇川を南側に見下ろす標高75mほどの

台地で，すでに耕地整理が行われている畑地帯である。

15. 茶屋堀Ａ遺跡（図版２）

台地東側に位置し成川式の土器片が表採された。古墳時代の散布地である。

16. 茶屋堀Ｂ遺跡（図版２）

台地の南側の縁辺部で下に岩元の集落を見下ろす位置にある。縄文土器片・土師器片・黒曜石の剥片などを表採した。縄文時代と中世の散布地である。

17. 茶屋堀Ｃ遺跡（図版２）

台地の中央部北側で，成川式の土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

18. 岩元原Ａ遺跡（図版２）

台地のほぼ中央部に位置し，土師器片を表採した。中世の散布地である。

19. 岩元原Ｂ遺跡（図版３）

現在の台地では北西の端部にあたるが，北側から谷が入り込み，もともとはその谷の西側の舌状の台地にあたると考えられる。成川式土器の破片を表採した。古墳時代の散布地である。

20. 岩元原Ｃ遺跡（図版３）

台地の南側縁辺部で，西に落ちる谷の谷頭の部分にあたる。成川式の土器片が表採された。古墳時代の散布地である。

21. 池頭遺跡（第２図～第４図－29～48・図版３）

樋脇川の北岸の，標高38mの河岸段丘で，川までは小さな谷と池頭Ａ遺跡の位置する小さな丘陵を挟む。平成３年度の農業基盤整備事業関係の分布調査時に確認されているが，遺跡範囲が広がり，かつ遺物の散布量が膨大であり，確認されていた古墳時代の遺物ばかりでなく，今回は旧石器時代の遺物を採集したために記載した。

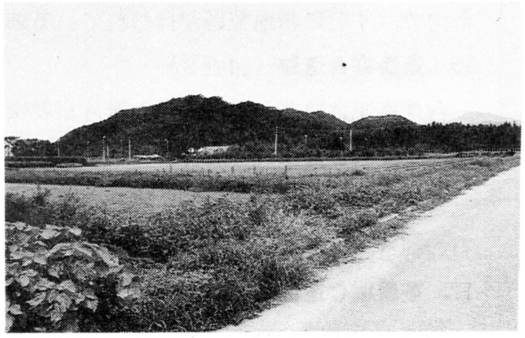
台地の北側は，29～39の成川式の土器片を中心に散布し，南側では黒曜石や凝灰岩や鉄石英などの石材の，とくに畦原型の細石核を中心に石器・フレーク・チップが一面に散布している。40は縦長剥片を利用した石　，41は石鏃で縄文時代の遺物と考えられる。いずれも黒曜石製である。42は黒曜石製の三稜先頭器で，43は横長の剥片を使つた黒曜石製のナイフ型石器である。44は鉄石英の細石核で，45～48は凝灰岩製の細石核である。いずれも旧石器時代の遺物で，細石核に関しては，偏平な素材を用いて分割礫を使用し，特に打面調整や周縁調整を行わない加治屋園技法の細石核の他に，下縁調整を行うものやそのブランク，一部打面調整を行うものなど種々のヴァリエーションがみられる。その後，分布調査も数度に及んで遺物を採集しているので，細石核を中心とする遺物に関しては，別の機会に資料化したい。

散布状況から，遺跡の南側の部分については，畑地造成で旧石器時代包倉層まで，削平が及んでいる可能性が高いが，北側と東側については，特に旧石器時代の興味深い資料が眠つているものと判断される。

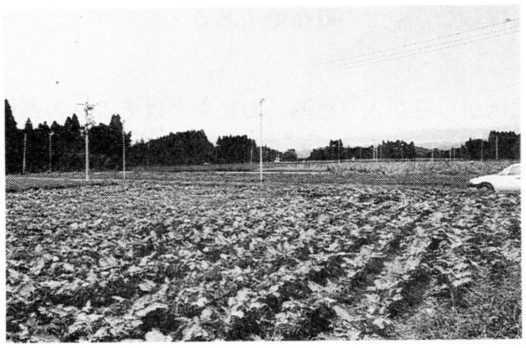
22. 池頭Ａ遺跡（図版３）

図版2

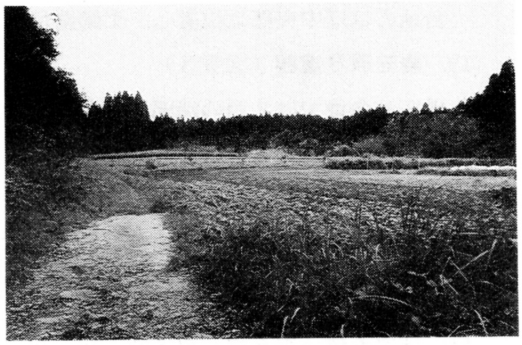
11　上祢地原Ａ遺跡　（南東から）



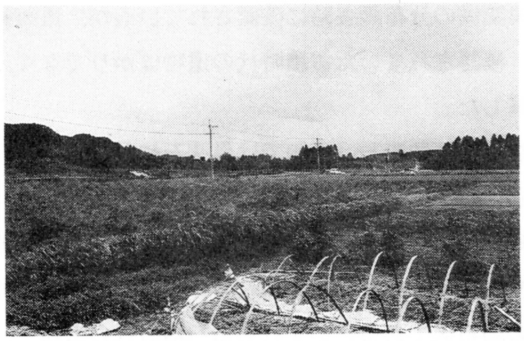
12　上祢地原Ｂ遺跡　（南から）



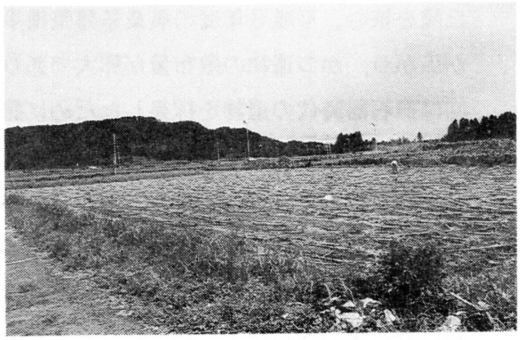
13．20　榎木水流遺跡・岩元原Ｃ遺跡（東から）



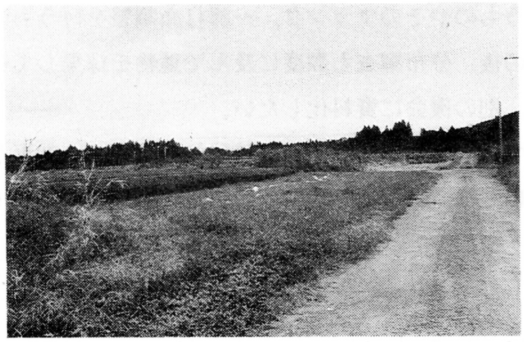
14　上修理田遺跡　（南東から）



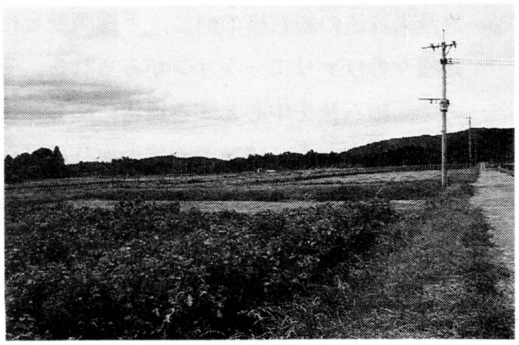
15　茶屋堀Ａ遺跡　（南西から）



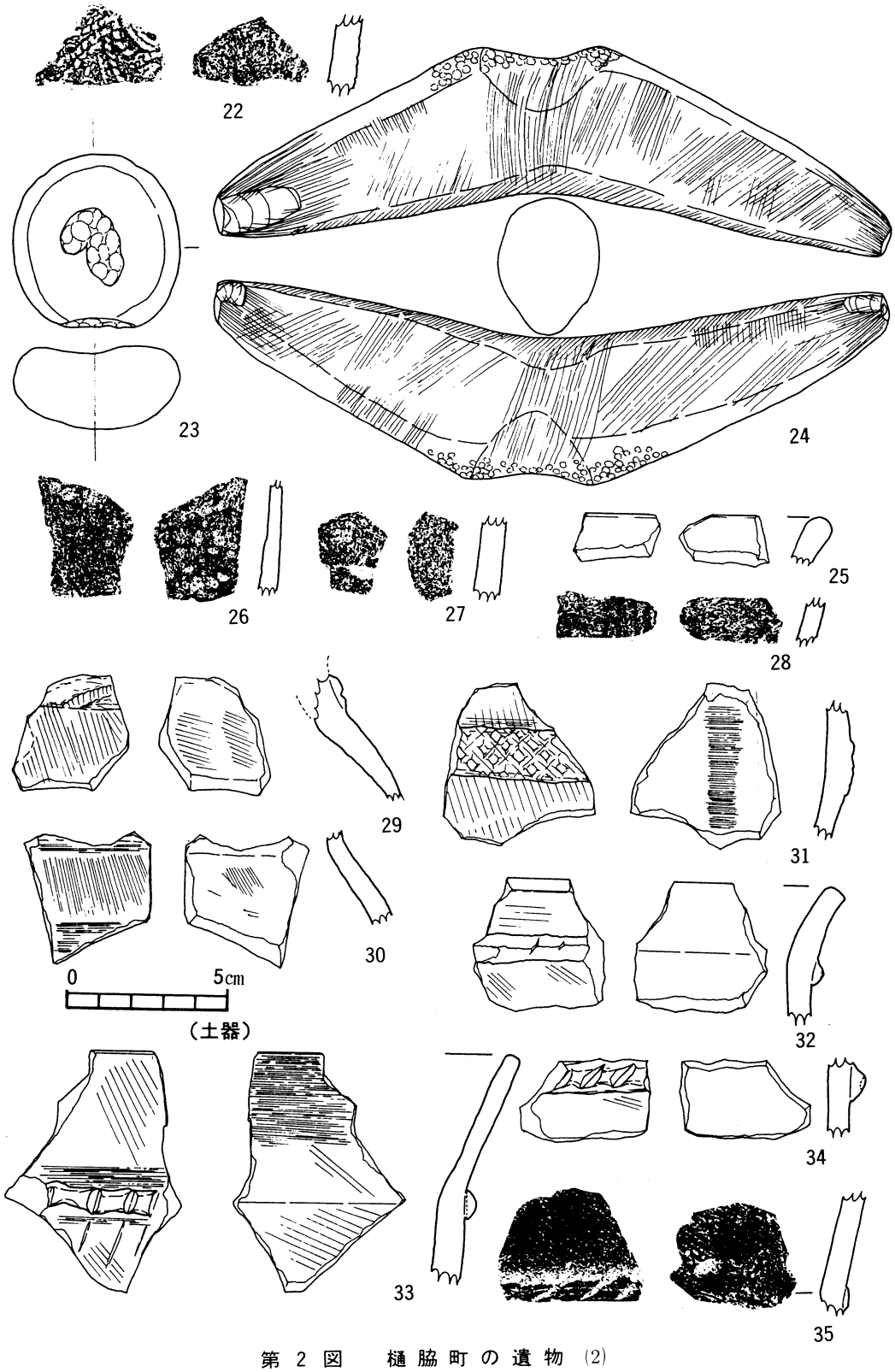
16　茶屋堀Ｂ遺跡　（南から）



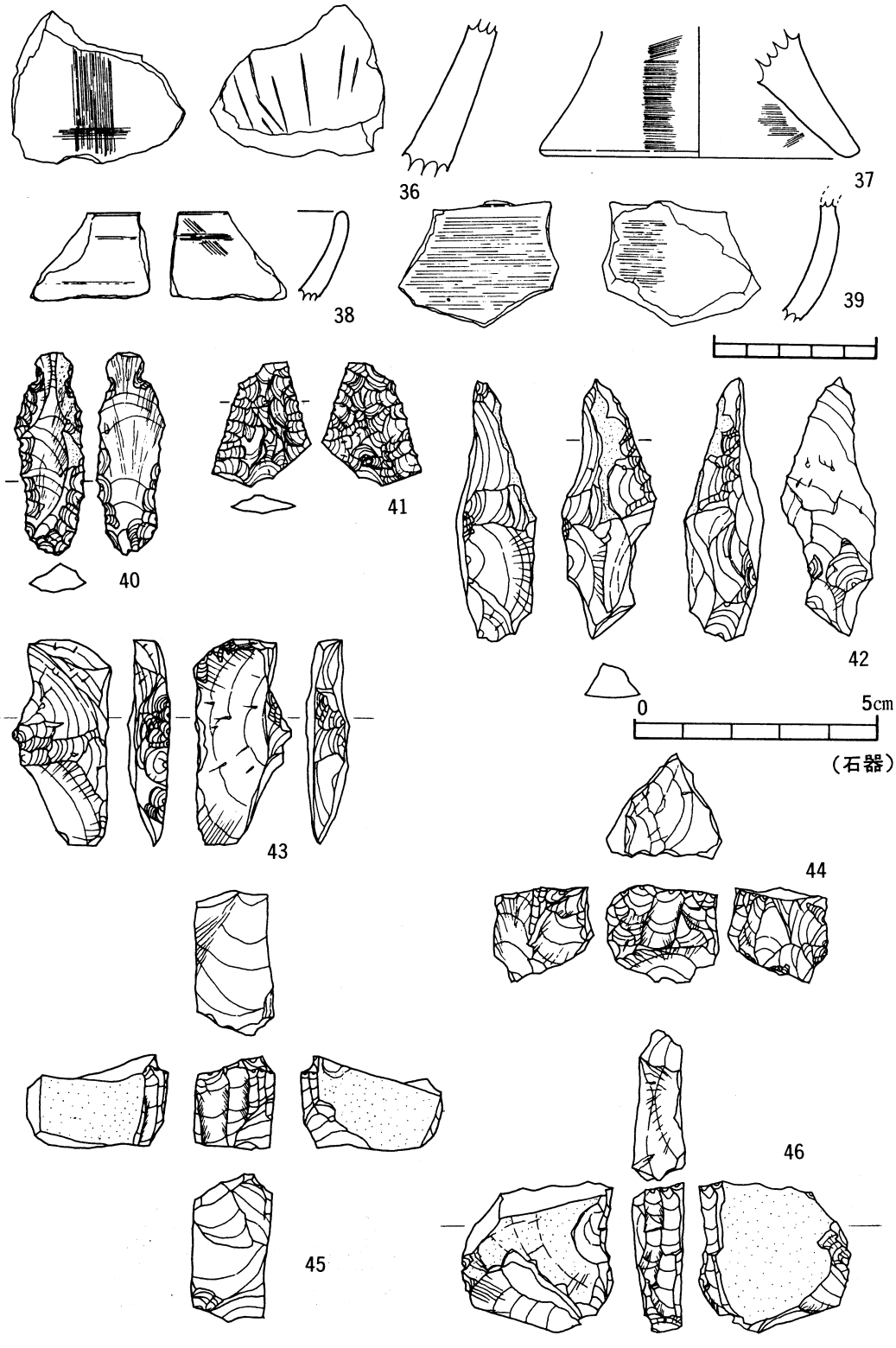
17　茶屋堀Ｃ遺跡　（南から）



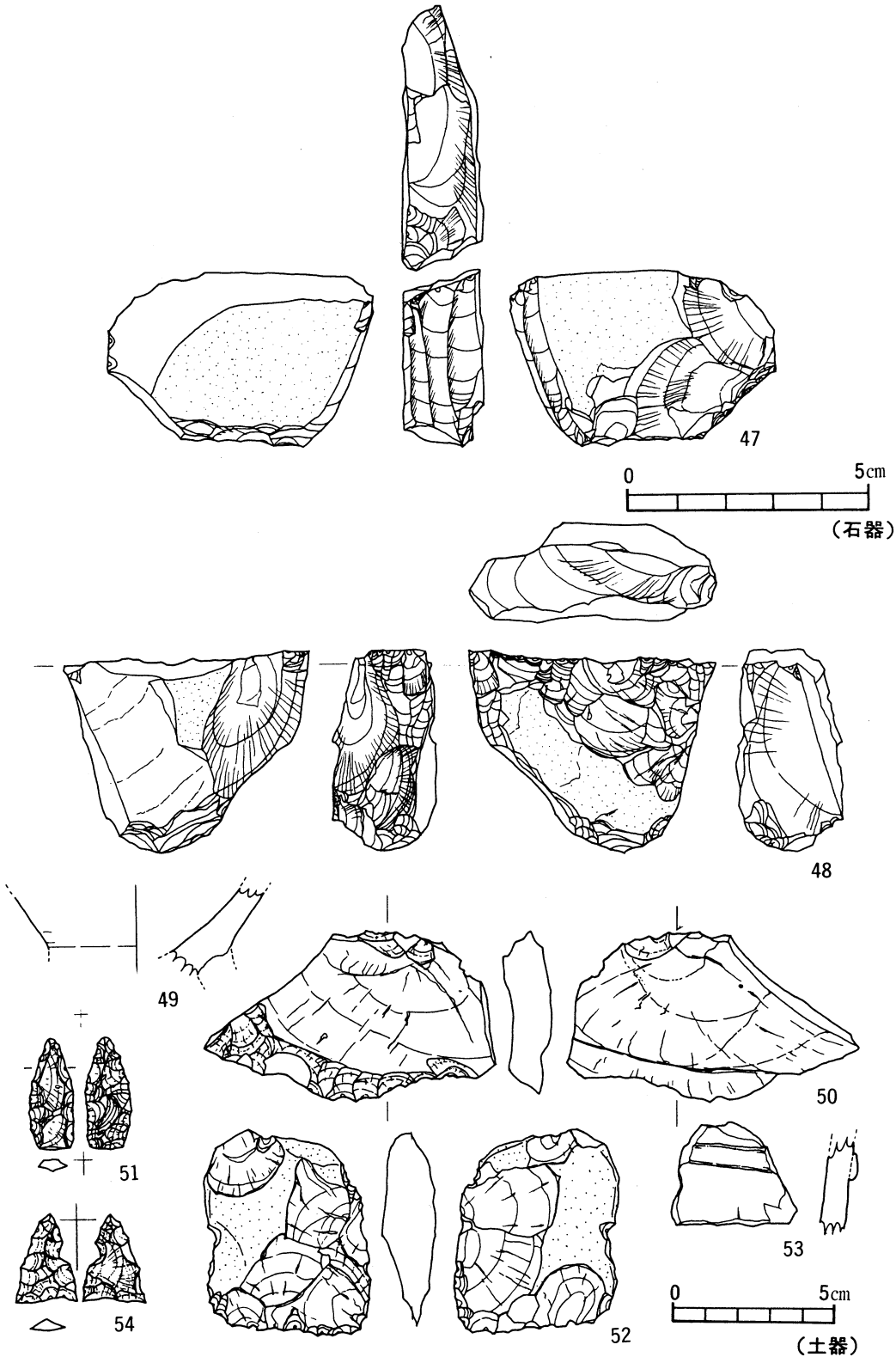
18　岩元原Ａ遺跡　（東から）



第 2 図　樋脇町の遺物 (2)



第 3 図　樋脇町の遺物 (3)



第 4 図　樋脇町の遺物 (4)

標高35mほどの河岸段丘であるが，遺跡の面積は小さい。池頭遺跡と同様の石材の剥片・チップが散布しており，分布調査とは別の時期に細石刃が採集されている。池頭遺跡と同じ旧石器時代の遺跡である。

23. 池頭Ｂ遺跡（第４図－49・図版３）

池頭遺跡とつながる標高40m強の一連の河岸段丘の東側にあたる。山畑遺跡とは，かなり深い谷を挟む。現況はミカン畑となつており，畑地造成のためかなりの切り盛りが考えられる。成川式土器の破片が一面に広がつていた。49は高坏である。古墳時代の散布地である。また立地条件が池頭遺跡と同じであり，より以前の時期の遺物包含層が存在する可能性が高い。

24. 山畑遺跡（図版３）

標高約45mほどの河岸段丘で，畑地としての造成がなされ表土が腐植土でなく，成川式土器の土器片が散乱している。南側は一段落ちて低くなり，北側は丘陵部につながつて行く。遺跡としては道路から北側に限られる。古墳時代の散布地である。

25. 池尻遺跡（図版３）

標高50mほどの東西に細長く伸びる尾根状の丘陵で，南北両側が谷となる。成川式土器の破片と，黒曜石の剥片を表採した。古墳時代の散布地である。

26. 中島遺跡（図版３）

樋脇川の南岸，標高20m弱の河岸で，古石塔が散在している。現況は畑地で土師器片などを表採した。中世の散布地である。

27. 沢渡Ａ遺跡（図版３）

樋脇川の南岸，西之原の標高20m強の河岸段丘に成川式土器片・黒曜石剥片を表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

28. 沢渡Ｂ遺跡（第４図－50，51，52・図版３）

標高30m前後の北向きにゆるやかに傾斜する丘陵で，成川式土器片と黒曜石の剥片を表採した。現在は旧鉄道敷地によつて分断されているが，北の樋脇川河岸まで台地が続いており，北側の台地の一部である小さな畑地には，黒曜石のチップ等が散乱していた。50・52は削器で，50は砂岩，52は凝灰岩の円礫を素材としている。51はチャート製の石鏃である。縄文時代と古墳時代の散布地である。

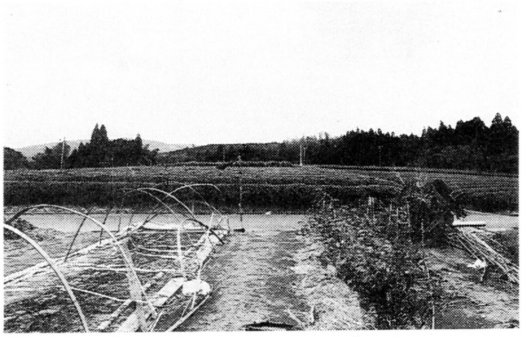
29. 沢渡Ｃ遺跡（図版４）

標高30m弱の微高地で，現況は畑地となつており，周辺は水田として利用されている。成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

30. 西ノ原遺跡（図版４）

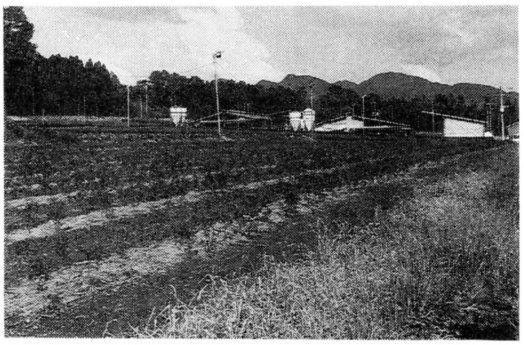
東側が，樋脇川に比高差10m程で急に落ちる標高30mほどの河岸段丘で，成川式土器の土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

19　岩元原Ｂ遺跡　（南から）



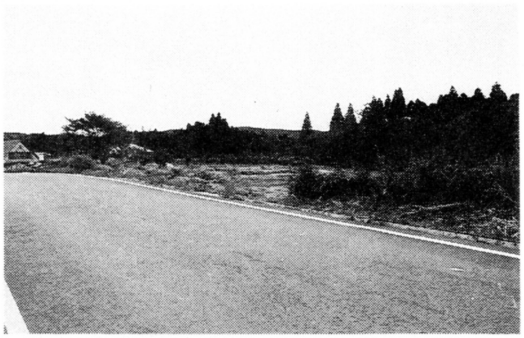
21　池頭遺跡　（東から）

23　池頭Ｂ遺跡　（西から）

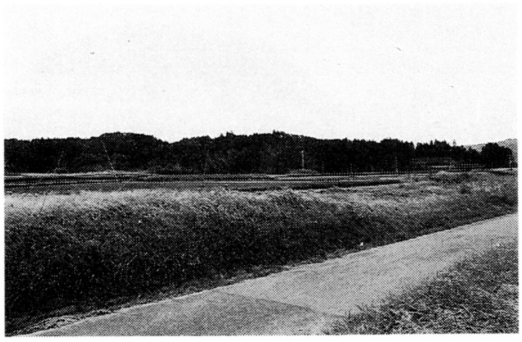


24　山畑遺跡　（西から）

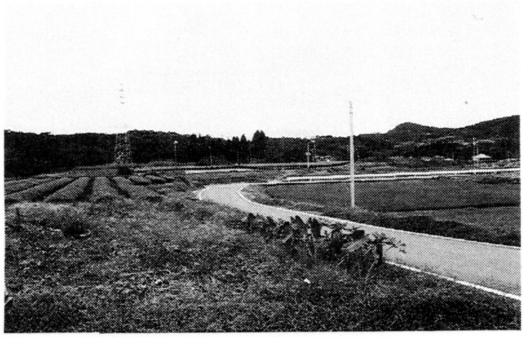
25　池尻遺跡　（南東から）



26　中島遺跡　（北東から）

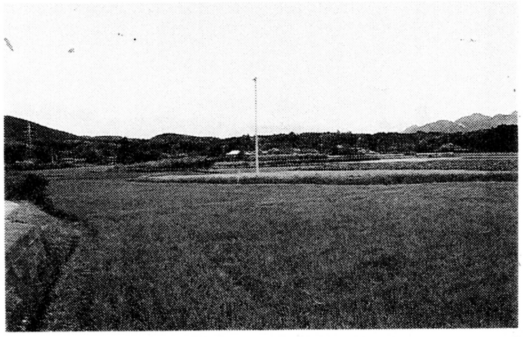


27　沢渡Ａ遺跡　（南から）



28　沢渡Ｂ遺跡　（東から）

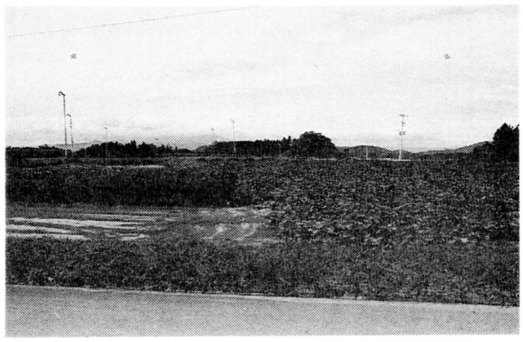
図版4



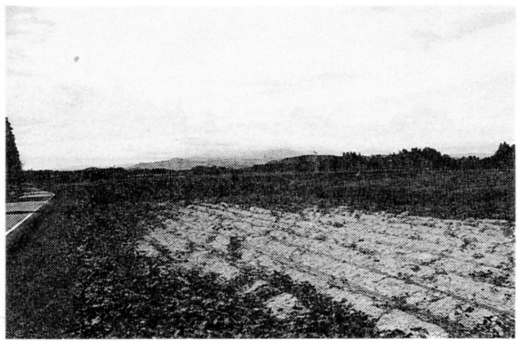
29　沢渡Ｃ遺跡　（南西から）

30　西之原遺跡　（南西から）

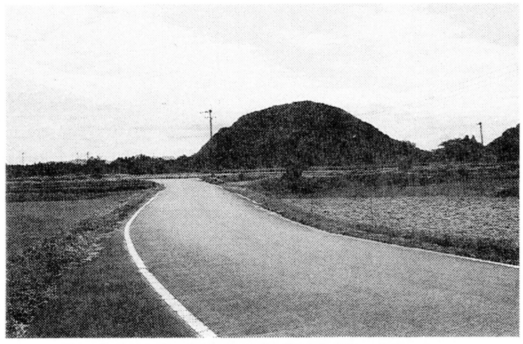
31　巣垣迫遺跡　（北から）



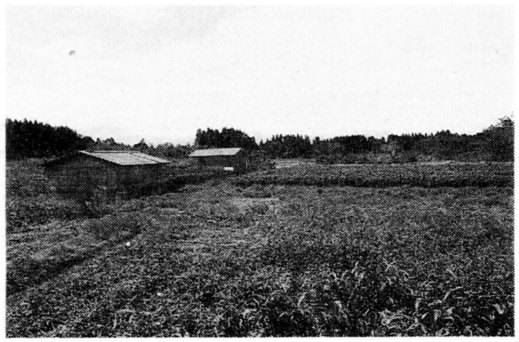
32　下原Ａ遺跡　（南から）



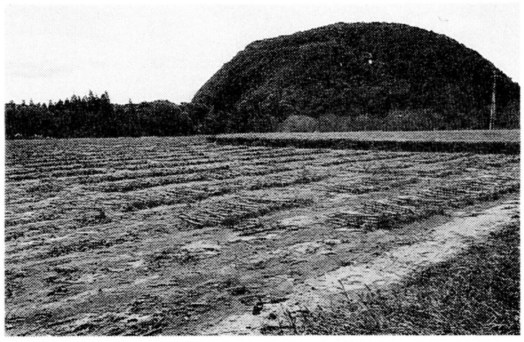
33　下原Ｂ遺跡　（南から）



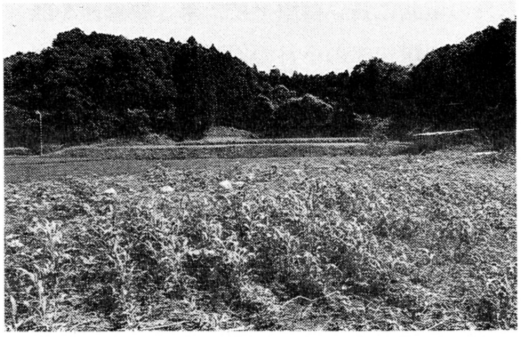
34　下原Ｃ遺跡　（東から）



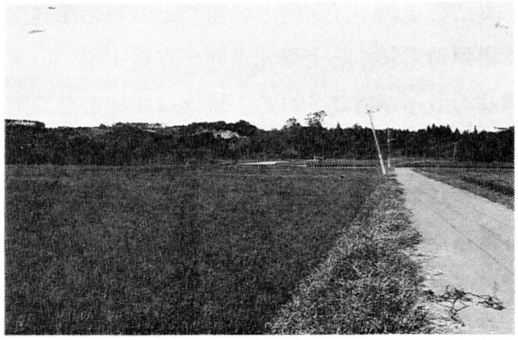
35　末寺原遺跡　（南から）



36　上原元遺跡　（東から）

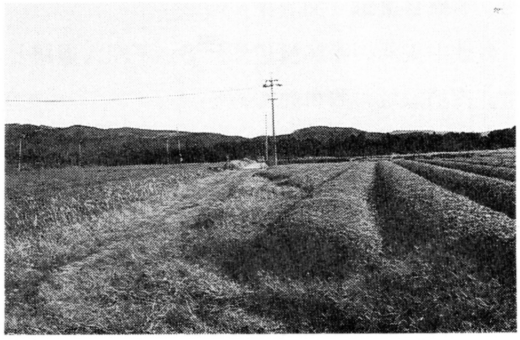


37　池ノ迫遺跡　（北から）

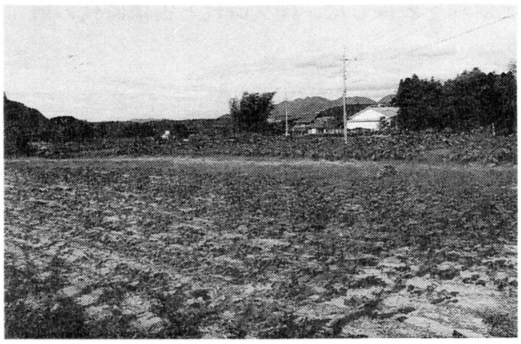


38　野稲原遺跡　（南西から）

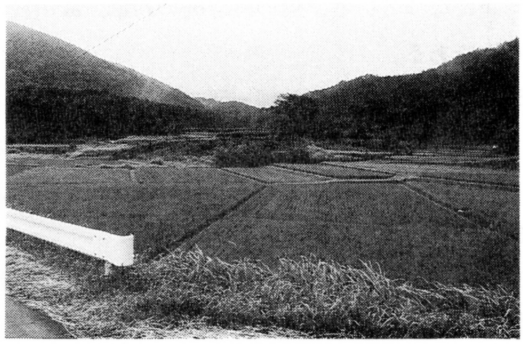
39　神ノ原Ａ遺跡　（北西から）



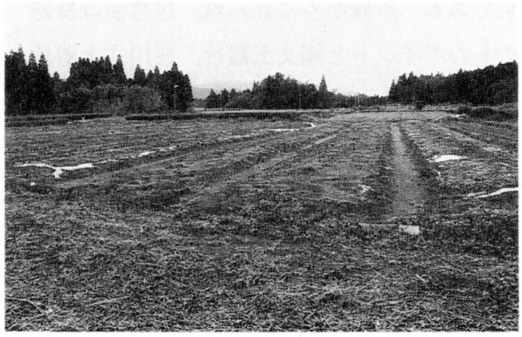
40　神ノ原Ｂ遺跡　（北西から）



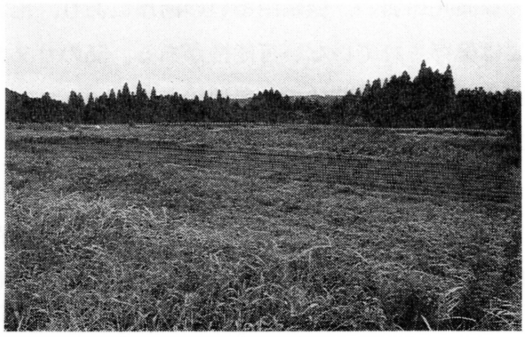
41　桂丸遺跡　（南から）



42　沢牟田遺跡　（北西から）



43　迫ノ原遺跡　（南東から）



44　現王Ａ遺跡　（北から）

丸山の東側，入来町との町境との間の標高100m内外の南北に長い台地上に，末寺原遺跡を除く巣垣迫遺跡から上原元遺跡が立地する。いずれも台地の縁辺部の小谷の谷頭にあたる場所に，遺物の散布が確認される。現況は畑地となつており，たばこ・ゴボウ・甘薯・陸稲などが耕作されていた。

31. 巣垣迫遺跡（図版４）

集落から上がつてすぐの台地部分に成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

32. 下原Ａ遺跡（図版４）

台地の中央部分にあたるが，西側に小さい谷が入り，周辺より一段高い畑地となつている。成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

33. 下原Ｂ遺跡（図版４）

台地中央部の西側縁辺部分で，下原Ａ遺跡とつながる可能性もある。成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

34. 下原Ｃ遺跡（図版４）

北から入る谷の谷頭部分にあたり，正面に標高136mの小高い山と，西側に丸山が望める。滑石製石鍋片，土師器片，黒曜石の剥片を表採した。古墳時代と中世の散布地である。

35. 末寺原遺跡（第４図－54・図版４）

下原Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡のある台地は南へ伸びるが，南側は広大な芝生畑であつて，遺物の散布状況は確認できなかつた。この台地と谷を隔てて東側に標高100m強の台地があり，入来町との町境になつている。54の砂岩製の石鏃，成川式の土器片を表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

36. 上原元遺跡（第５図－55・図版４）

丸山公園の前の台地の縁辺部にあたり，削平されて畑地となつている。55の黒曜石製の台形石器，縄文土器片，黒曜石剥片などを表採した。旧石器時代と縄文時代の散布地である。

37. 池ノ迫遺跡（図版５）

標高70mの谷あいにあり，谷に向かう山裾の畑地で青磁片，土師器片などの中世の遺物を表採した。中世の散布地である。

38. 野稲原遺跡（第５図－56・図版５）

標高40m弱の，樋脇川沿いの河岸にあり，氾濫原である。砂礫が多く見られ，包含層は良好には保存されていない可能性がある。56のサヌカイトのポイントと縄文土器片，成川式土器片，縄文時代と古墳時代の散布地である。

39. 神ノ原Ａ遺跡（第５図－57・図版５）

下原Ａ遺跡などがある遺跡と県道，川内・加治木線で分断され，現在ゴルフ場の東側に位置する標高100m強の台地で，入来町の鹿村ヶ迫遺跡と隣接し，同一の遺跡と見なされる。57の黒曜石製のスクレイパー，縄文土器片などを表採した。縄文時代の散布地である。

40. 神ノ原Ｂ遺跡（図版５）

神ノ原Ａ遺跡と同一の台地の南側に位置する。縄文土器片，黒曜石剥片を表採した。縄文時代の散布地である。

41. 桂丸遺跡（図版５）

市比野小学校の南側の標高50m弱の台地にある。遺跡の西側は基盤層が表土に混入しているものと判断され，包含層の残りはよくない可能性がある。縄文土器片，成川式土器片を表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

42. 沢牟田遺跡（第５図－58～60・図版５）

標高100m強の舌状に突き出した台地で，台地の下は水田となつている。「鹿児島考古　14号」に記載してある沢牟田遺跡と同一と考えられるが，従来の遺跡分布地図の位置と異なつており，再確認のために記載した。黒曜石の細片が多量に散布している。58～60の黒曜石製の石鏃と黒曜石の剥片を表採した。縄文時代の散布地である。

43. 迫ノ原遺跡（第５図－61・図版５）

県道川内・加治木線により南北に分断された標高80m程の台地である。北の上之原地区へ向かう谷の谷頭の台地にあたる。貝殻条痕文土器の破片と61の黒色チャート製の石鏃と黒曜石の剥片，成川式土器片を表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

44. 現王Ａ遺跡（図版５）

迫ノ原遺跡と谷を隔てて，北西側の標高75mの台地で，畑地として造成され，かなりの削平を受けているものと考えられる。成川式土器の土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

45. 現王Ｂ遺跡（第５図－62・図版６）

Ａ遺跡から北に下つた標高70m強の尾根が，畑地として造成され利用されている。62の黒曜石の石鏃と黒曜石の剥片，縄文土器片などを表採した。縄文時代の散布地である。

46. 上ノ原遺跡（図版６）

上ノ原地区の住宅地の中の畑地で，入り口部分に小さな祠が祭祀されている。標高は35m程である。縄文土器片と成川式土器片を表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

47. 杉馬場遺跡（第５図－63・図版６）

樋脇町から川内市に向かう県道の南側にあり，北側は水田地帯で，さらに樋脇川がながれている。旧鉄道によつて分断される標高20m前後の舌状台地で，縄文土器片と63の黒曜石製の石鏃と黒曜石の剥片を表採した。縄文時代の散布地である。

48. 石坂遺跡（第５図－64・図版６）

藤本の市比野川の支流が流れる谷の南側の標高200mの丘陵に立地し，遺跡の西側は郡山町との町境の山地帯となつている。県道郡山・樋脇線の道路沿いの東側で，64のチャート製の石匙と黒曜石の剥片を表採した。縄文時代の散布地である。

49. 岩下遺跡（第５図－66，67，68・図版６）

藤本の藤本滝の北側の山あいに，南北を小谷に挟まれた標高200m強の丘陵がつづき，現在も住居地として使われている。この丘陵を横切る道路の両側で遺物が表採された。かつての屋敷跡とタバコ畑に，縄文土器片と66の砂岩製の剥片石器と67の黒曜石の細石核を表採した。細石核は小礫を素材として，一部に自然剥離がみられる，他に黒曜石の剥片も多く散布していた。旧石器時代と縄文時代の散布地である。

50. 松山Ａ遺跡（第５図－68・図版６）

県道串木野・樋脇線が山地帯を抜け，樋脇町に入り両側に畑地のひろがる台地に出る。東に市比野川・西に城後川の分水嶺にあたる標高125mのこの台地の東側縁辺部に遺跡が立地する。市比野川を見下ろすことができる位置にある。縄文土器片，成川式土器片，青磁片と，68の黒曜石製の石鏃と黒曜石の剥片などを表採した。縄文時代と古墳時代と中世の散布地である。

51. 松山Ｂ遺跡（図版６）

松山Ａ遺跡と同一の台地で，（株）ヒワキの工場の西側部分にあたる。縄文土器片と黒曜石の剥片，成川式土器片を表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

52. 集ヶ段遺跡（図版６）

松山Ａ・Ｂ遺跡のある台地の延長の標高118mの尾根部分で，畑地として造成されて平坦地となつている。現状はりんごの果樹園となつている。成川式土器の土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

53. 下井手遺跡（第５図－69～72・図版７）

標高70m弱の市比野川の河岸段丘で，県道郡山・樋脇線の西側の畑地である。黒曜石のチップ等が多く散布していた。69～71は灰色の黒曜石の楔形石器で，72は黒曜石製の細石核で打面の一部が欠損している。黒曜石の剥片，縄文土器片も表採した。旧石器時代と縄文時代の散布地である。

54. 久留主遺跡（図版７）

下井手遺跡と同様に，市比野川の東，県道郡山・樋脇線の東側の山裾の畑地で，茶畑として造成・整備されている。縄文土器片，成川式土器片，黒曜石の剥片を表採した。縄文時代と古墳時代の散布地である。

55. 小森遺跡（第５図－73・図版７）

丸山の下，市比野川の東側の樋脇中学校の南側に，水田地帯に突き出した標高30m強の小さな台地がある。縄文土器片，成川式土器片，黒曜石の剥片などが表採されたが，包含層の保存状態は良くないと判断される。73の青磁片も表採した。縄文時代と古墳時代と中世の散布地である。

56. 桜島遺跡（第５図－74・図版７）

樋脇中学校の北側の住居地の中の標高30mほどの小高い畑地で，シラスらしい土が表土と混ざつており，包含層の保存状態は良くないと考えられる。縄文土器片と，74の灰色チャート製

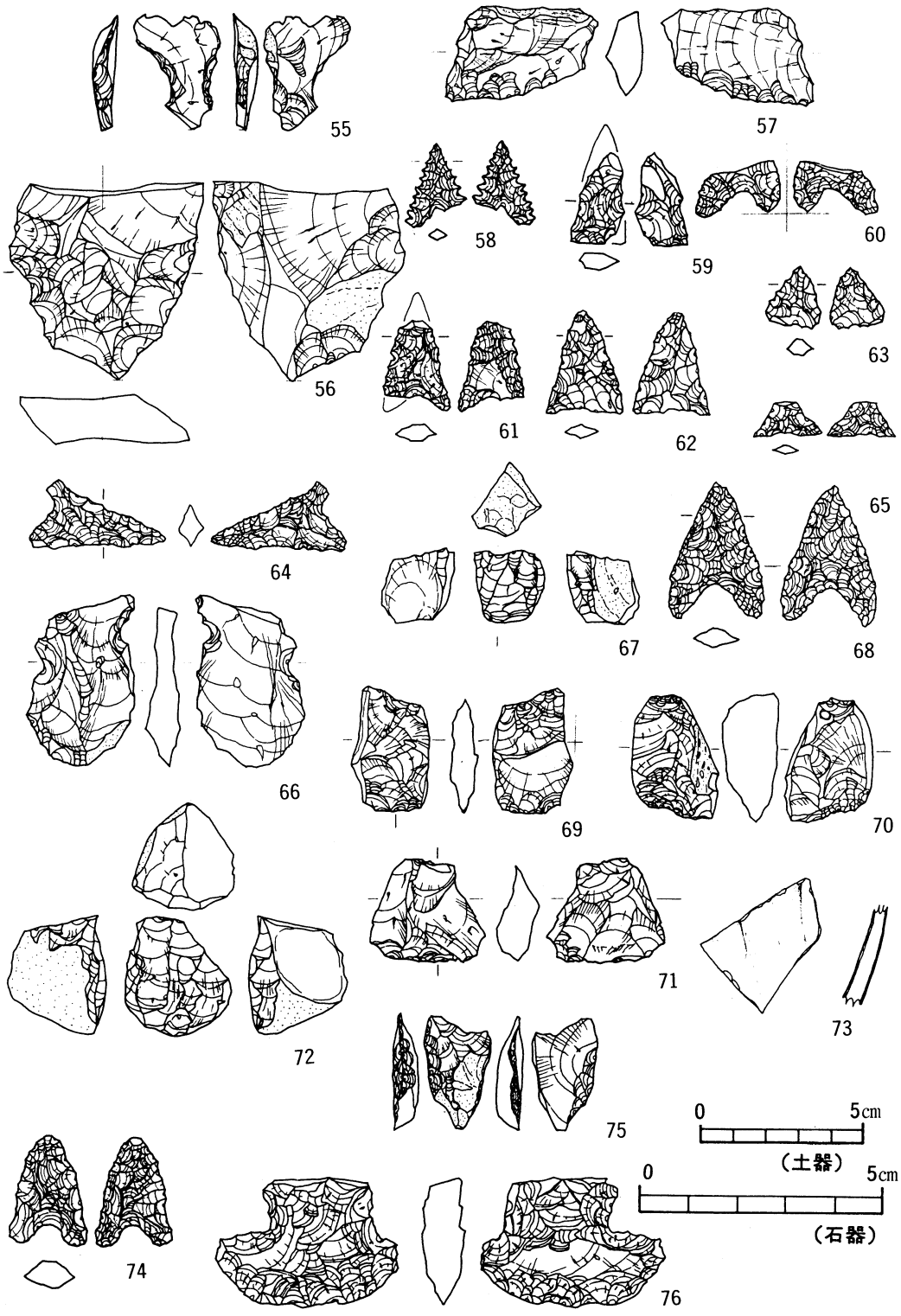
の石鏃，黒曜石の剥片を表採した。縄文時代の散布地である。

57. 百木野段遺跡（図版７）

丸山の北側の山裾で，東側の金貝地区の方へ広がる谷の谷頭にあたる部分である。縄文土器片と黒曜石の剥片を表採した。縄文時代の散布地である。

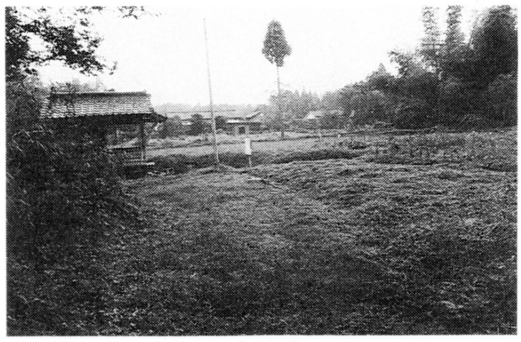
58. 豆迫遺跡（第５図－75，76・図版７）

南側に市比野の市街地・水田地帯を見下ろし，東側に丸山・市比野川が展望できる，標高83mの見晴らしのよい台地の南側縁辺部に立地する。(株)田苑酒造の工場の西側の台地である。75の黒曜石製の台形石器と，76の灰色のチャート製の石　，縄文土器片，須恵器片が表採された。旧石器時代と縄文時代と古墳時代の散布地である。

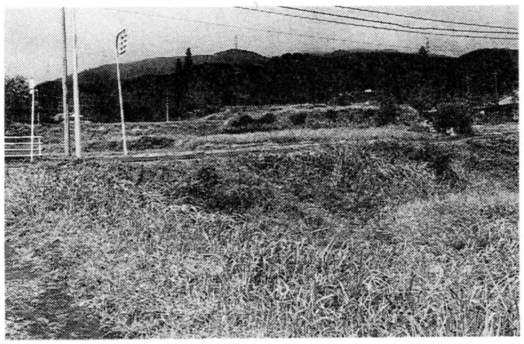

55
57
58
59
60
56
61
62
63
64
65
67
68
66
69
70
71
72
73
75
74
76
0
5cm
(土器)
0
5cm
(石器)

第 5 図　樋脇町の遺物 (5)

45　現王Ｂ遺跡　（南西から）



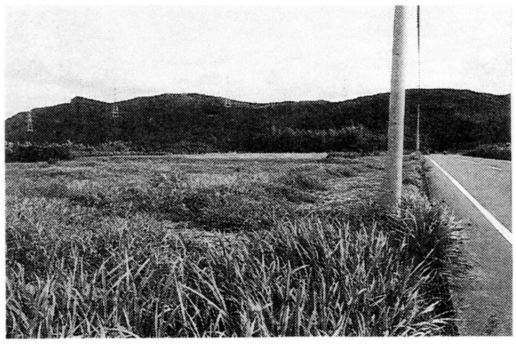
46　上ノ原遺跡　（西から）



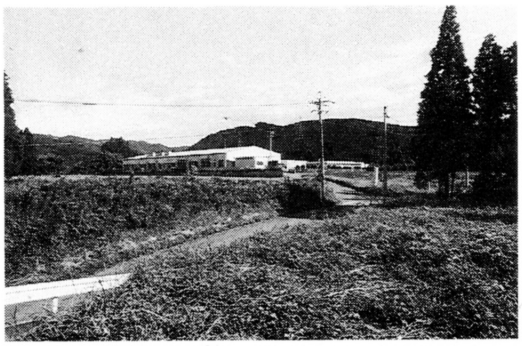
47　杉馬場遺跡　（東から）

48　石坂遺跡　（東から）

49　岩下遺跡　（南東から）



50　松山Ａ遺跡　（北から）

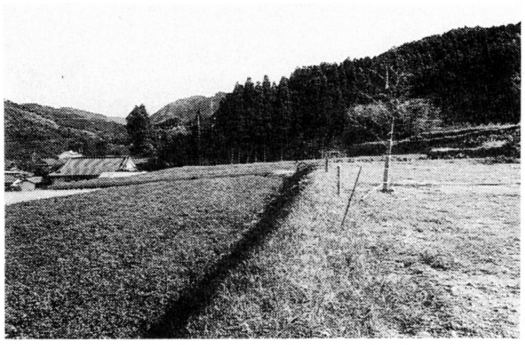


51　松山Ｂ遺跡　（北から）

52　集ヶ段遺跡　（南東から）

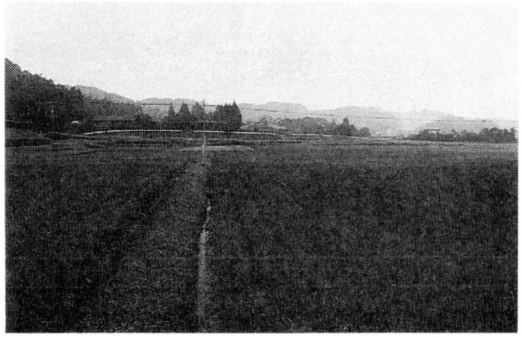
図版7

53　下井手遺跡　（北東から）

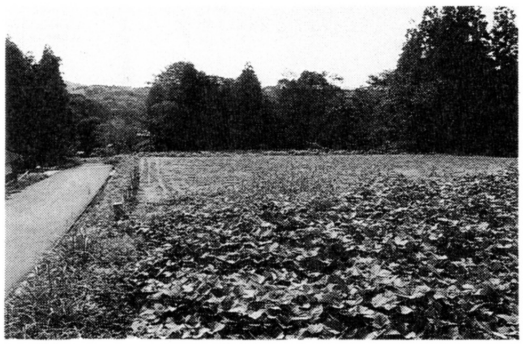


54　久留主遺跡　（北から）

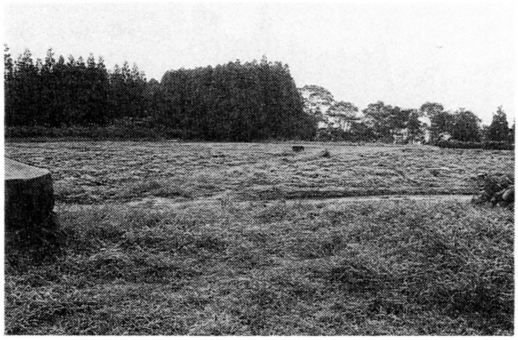
55　小森遺跡　（北東から）



56　桜島遺跡　（南から）



57　百木野段遺跡　（東から）



58　豆迫遺跡　（西から）

第 2 節　東 郷 町

東郷町は，鹿児島県の北西部に位置する。町の境界は，川内川及び田海川の一部と，ほぼ東西に走る紫尾山系ならびにそれにより北西に走る小山脈にみることができ，町内の約70％を山地帯が占める。地形を大まかに区分すると，北部山地，鳥丸斧渕平地，笠山山塊，山田南瀬平地の4つからなる。また，重要河川の南部を西流する川内川をはじめ，田海川，樋渡川，山田川，岩切川が，さらに，これら川の上流には，その支流である谷川が走り狭く細長い山峡が形成されて，川内川に注いだ流域に一部平坦地がみられる。

東郷町内には現在までに，47か所の先史時代の遺跡が知られている。今日，同町においても大規模開発が進みつつあり，ゴルフ場建設に伴って旧石器時代・縄文早期土器・石器が出土した「大谷遺跡」や，ほ場整備事業・道路新設改良に伴う縄文後期～晩期の「川原遺跡」，縄文～古墳～奈良・平安時代の「五社遺跡」の発掘調査が行なわれ，東郷町の遺跡の在り方が明らかになりつつある。

今回の分布調査によって新たに18の遺跡が追加された。

第 4 表 東郷町遺跡地名表（1）

番号	遺　跡　名	所　在　地	地　形	時　代	遺　物	備　考
1	内浦	東郷町斧渕	台　地	縄文・古墳	黒曜石剥片・成川式土器片	
2	小田・小田原	〃　〃	〃	旧石器・縄文・古墳	細石核・細石刃・縄文土器片・須恵器・成川式土器	
3	簾掛	〃　〃	〃	縄文・中世	縄文土器片・土師器片	
4	宮ケ原	〃　〃	〃	古墳・中世	黒曜石剥片・成川式土器片・土師器片	
5	笹原	〃　〃	河　岸 段　丘	縄文・古墳 中世	石鏃・黒曜石剥片・縄文土器片	
6	松坂	〃　〃	台　地	縄文	黒曜石剥片・縄文土器片	
7	茶屋段	〃　〃	〃	縄文・古墳	石鏃・成川式土器片	
8	坂ノ下	〃　南瀬	河　岸 段　丘	縄文	石鏃・黒曜石剥片・縄文土器片	
9	川畑	〃　〃	〃	古墳	成川式土器片	
10	城ケ原A	〃　〃	台　地	縄文・古墳	成川式土器片 縄文土器片	
11	城ケ原B	〃　〃	〃	縄文	縄文土器片	
12	前原	〃　斧渕	河　岸 段　丘	古墳	成川式土器片	
13	大牟礼	〃　南瀬	台　地	縄文・古墳	縄文土器片・成川式土器片	
14	坂中	〃　〃	〃	縄文	縄文式土器片	
15	宇都	〃　〃	〃	古墳・中世	成川式土器片・土師器片・青磁片	
16	諏訪ケ原	〃　〃	〃	古墳	成川式土器片	
17	山武	〃　鳥丸	台　地	縄文・古墳	石鏃・黒曜石剥片・成川式土器片	
18	木場	〃　宍野	〃	古墳	成川式土器片	

1．内浦遺跡（図版９）

標高約55mの三方を山に囲まれ，開析された南に緩やかに傾斜する畑地に所在する。採集遺物には成川式土器片や黒曜石剥片がある。縄文時代，古墳時代の散布地である。

2．小田・小田原遺跡（第６図－77～84・図版９）

標高約60mの南に延びた台地の畑地に所在する。遺物の分布は，道路を挟んで屋敷畑及び飼料畑に見られる。77の縄文後期土器や，79の古墳時代の成川式土器，80の青海波文タタキを施す須恵器片をはじめ，81の黒曜石製の細石刃，82～83は黒曜石製の野岳・休場タイプの細石核，及び84の頁岩を素材とする加治屋園タイプの細石核がある。東郷町では，初めての旧石器時代の遺跡の存在が明らかになつた。立地条件としては，良好な場所といえる。旧石器時代，縄文時代，古墳時代の散布地である。

3．簾掛遺跡（第６図－85・図版９）

樋渡川の支流によつて浸食して形成された，標高約65mの西に延びた台地の畑地に所在する。採集遺物には縄文土器片，土師器片，85の染付け碗がある。縄文時代，中世の散布地である。

4．宮ケ原遺跡（第６図－86・図版９）

３の簾掛遺跡より西側の段々畑に所在する。遺物には黒曜石剥片，成川式土器，土師器がみられる。遺物包含層は耕作等によつて削平されている可能性がある。採集遺物には，86の摺り鉢の胴部片や縄文土器片，土師器片を表採した。古墳時代，中世の散布地である。

5．笹原遺跡（第７図－87～89，図版９）

川内川の河岸段丘，標高約30mの八手状に延びた小規模の舌状台地の屋敷畑に所在する。南側は縁辺部で急崖な地形となる。縄文土器片，89の黒曜石製石鏃，成川式土器片，土師器片が表採された。縄文時代，古墳時代，中世の散布地である。

6．松坂遺跡（第７図－90，91・図版９）

南に幾重にも延びた比較的安定した丘陵中央部の，道路を挟んで両サイドの一段高い標高約50mの畑地に所在する。90，91の縄文土器片や黒曜石片を表採した。縄文時代の散布地である

7．茶屋段遺跡（第７図－92・図版９）

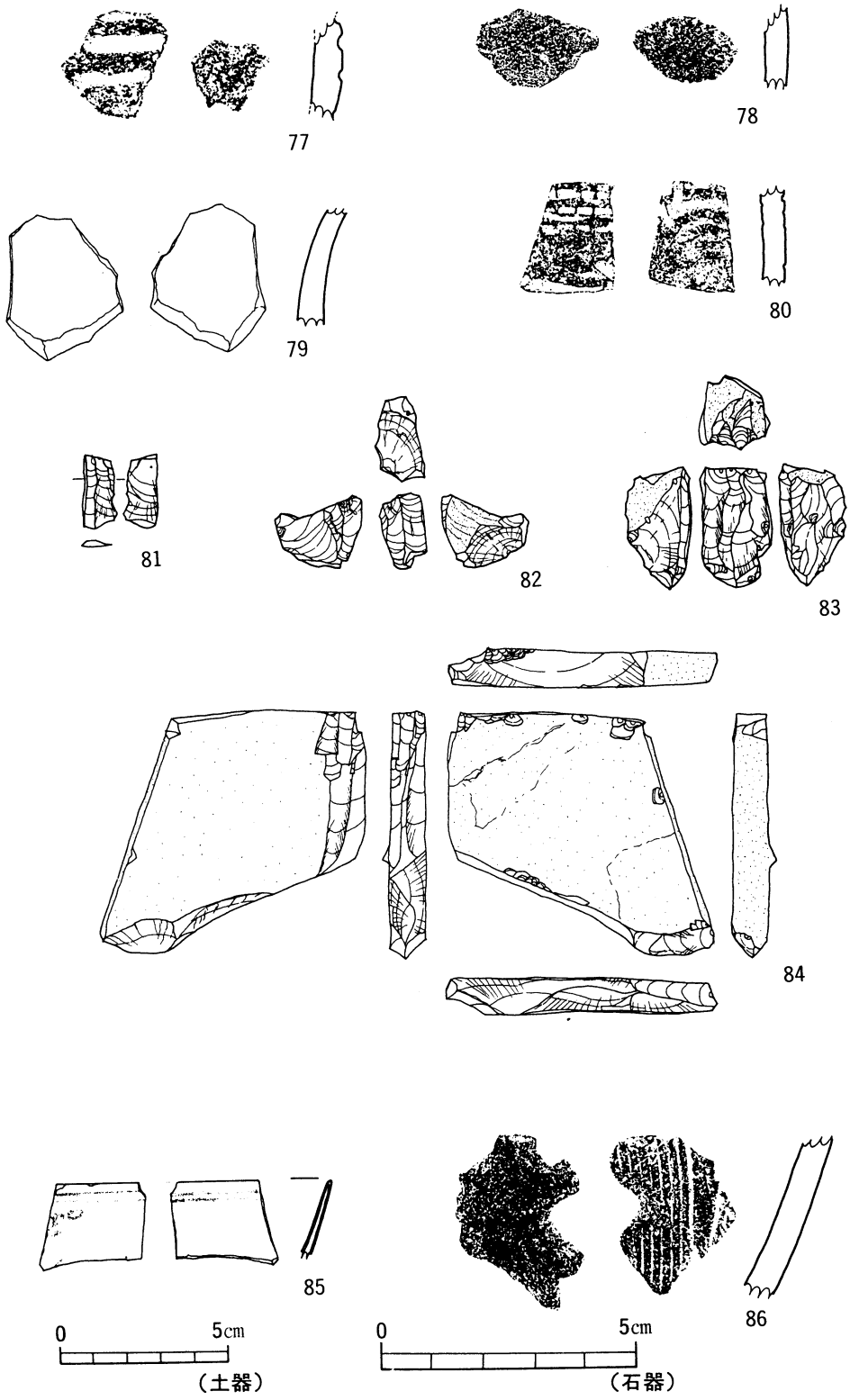
松坂遺跡と隣接し，標高約42mで丘陵の基部に所在している。縄文式土器片や92の黒曜石製の充実した脚を有する石鏃，成川式土器片が表採された。縄文時代，古墳時代の散布地である。

8　坂之下遺跡（第７図－93，94・図版９）

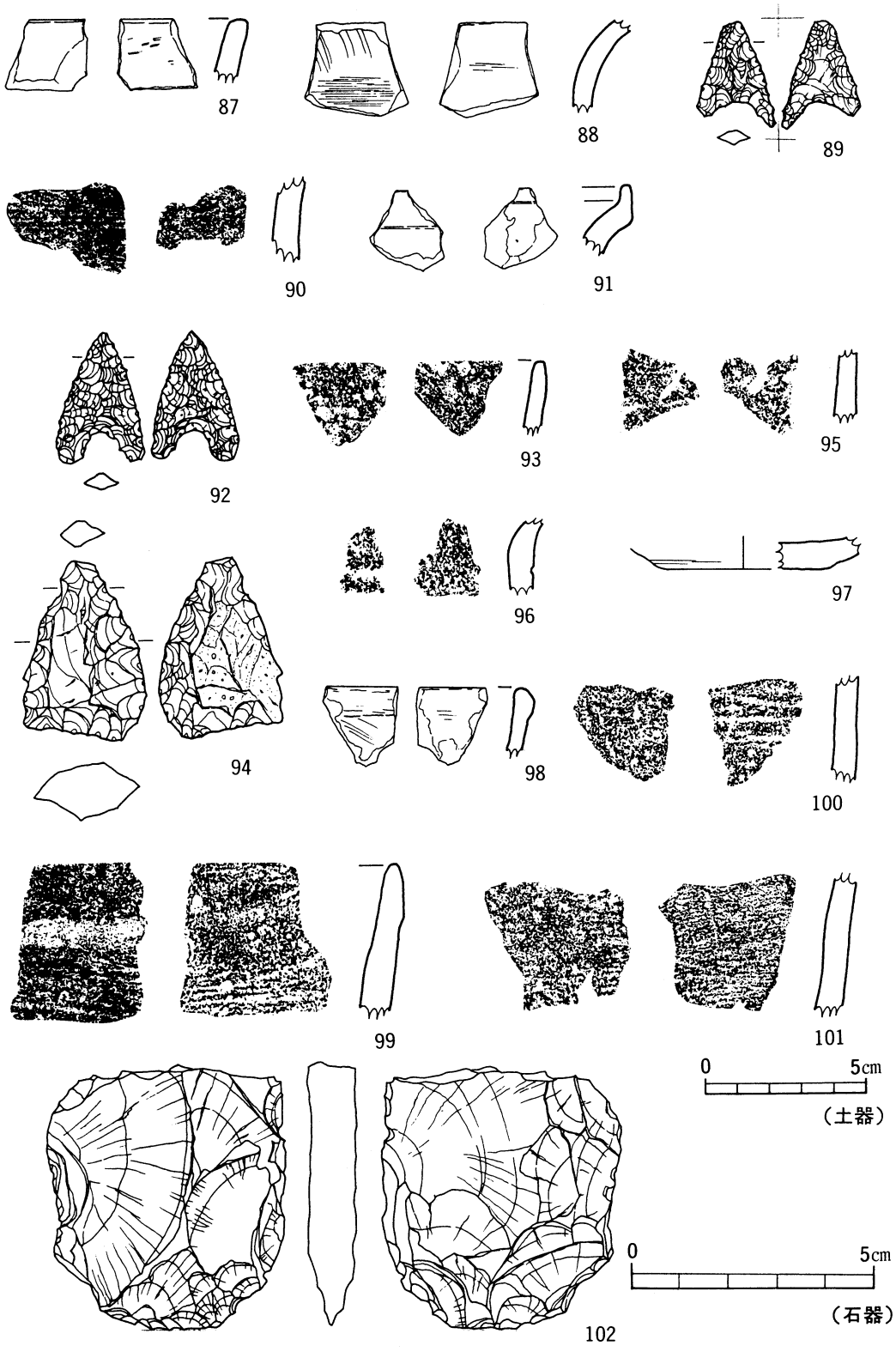
国道267号の南側，南瀬下集落の川内川によつて形成された，南に突き出た標高約14mの河岸段丘の基部に所在する。93は縄文時代早期の土器片，94はタンパク石を素材とした自然面を残し基部が肥厚する石鏃を表採した。縄文時代の散布地である。

9．川畑遺跡（第７図－95・図版10）

坂之下遺跡のほぼ南側の台地先端部に所在する。表採資料としては，95の成川式土器片を採集した。古墳時代の散布地である。

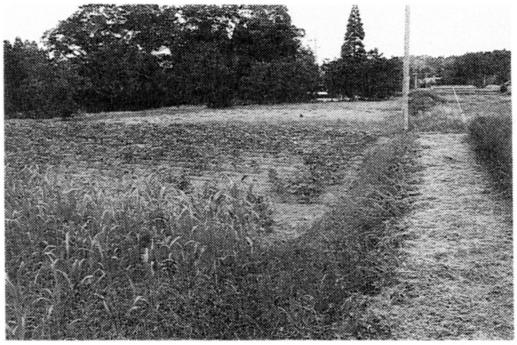


第 6 図　東郷町の遺物 (1)

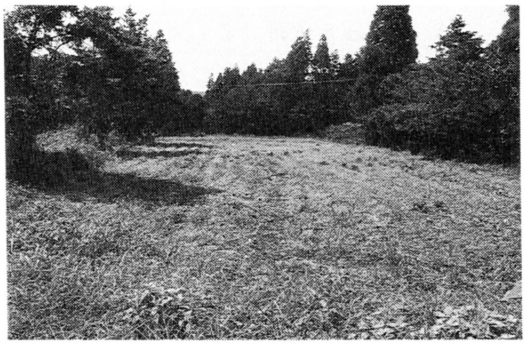


第 7 図　東郷町の遺物 (2)

図版8



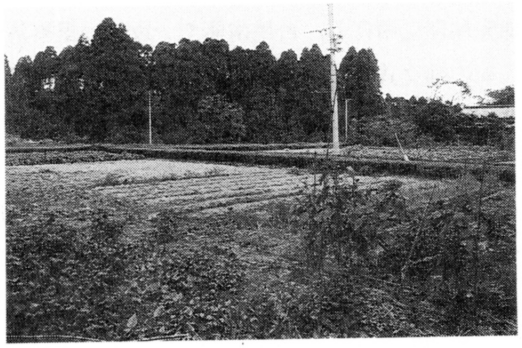
1　内浦遺跡　（東から）



2　小田・小田原遺跡　（北から）

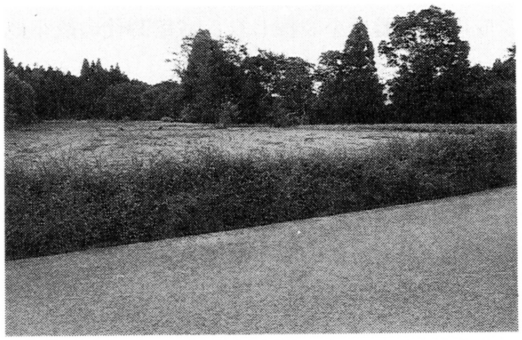
3　簾掛遺跡　（東から）

4　宮ケ原遺跡　（南東から）



5　笹原遺跡　（南から）

6　松坂遺跡　（東から）



7　茶屋段遺跡　（北東から）

8　坂之下遺跡　（北東から）

10. 城ヶ原A遺跡（第７図－96～97・図版10）

標高約30mの南に延びた舌状台地の先端部のわずかに南に傾斜した畑地に所在する。台地の東，西には小河川が流れ川内川へと潅ぐ。96は縄文早期相当の土器片と思われ，97はヘラ切り底を呈する土師式土器である。縄文時代，古墳時代の散布地である。

11. 城ヶ原B遺跡（第７図－98～102・図版11）

城ヶ原A遺跡の北側に所在し，舌状台地の基部にあたる。小規模の集落が営まれている。遺物には，98，99は貝殻状痕文を施す縄文式土器の口縁部片，100・101は貝殻状痕文土器片，102は，岩製の打製石斧を表採した。縄文時代の散布地である。

12. 前原遺跡（図版11）

標高約20mの南に延びた川内川河岸段丘の五社集落のなかに所在する。なお，当地区は現住中山間地域農村活性化事業として道路改修や排水溝の工事が進められている場所である。屋敷畑から成川式土器の小破片を採集したが，確実な遺物包含層の堆積は現存していない可能性がある。古墳時代の散布地である。

13. 大牟礼遺跡（第８図－103・図版11）

ゴルフ場建設予定地内の遺跡で，平成元年度に分布調査済みの場所であるが，当初の遺跡範囲より広がる可能性がある。103は成川式土器の口縁部片である。また，縄文土器片も採集した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

14. 坂中遺跡（第８図－104・105・図版11）

向江原集落の標高40m強の南に延びた台地先端部に所在し，台地南側で一段低い里集落へと続く。当地は，樹木の植栽と畑地からなる。104の縄文式土器片，105の成川式土器片を採集した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

15. 宇都遺跡（第８図－106・図版11）

標高約70mの台地に所在する。北側は狭くくびれ，南及び東側にかけ大きく開かれた地形を呈している。西側は，集落との比高約30mで小河川が南に流れる。採集遺物には，106の成川式土器の口縁部片や土師器，青磁片がある。古墳時代，中世の散布地である。

16. 諏訪ヶ原遺跡（図版11）

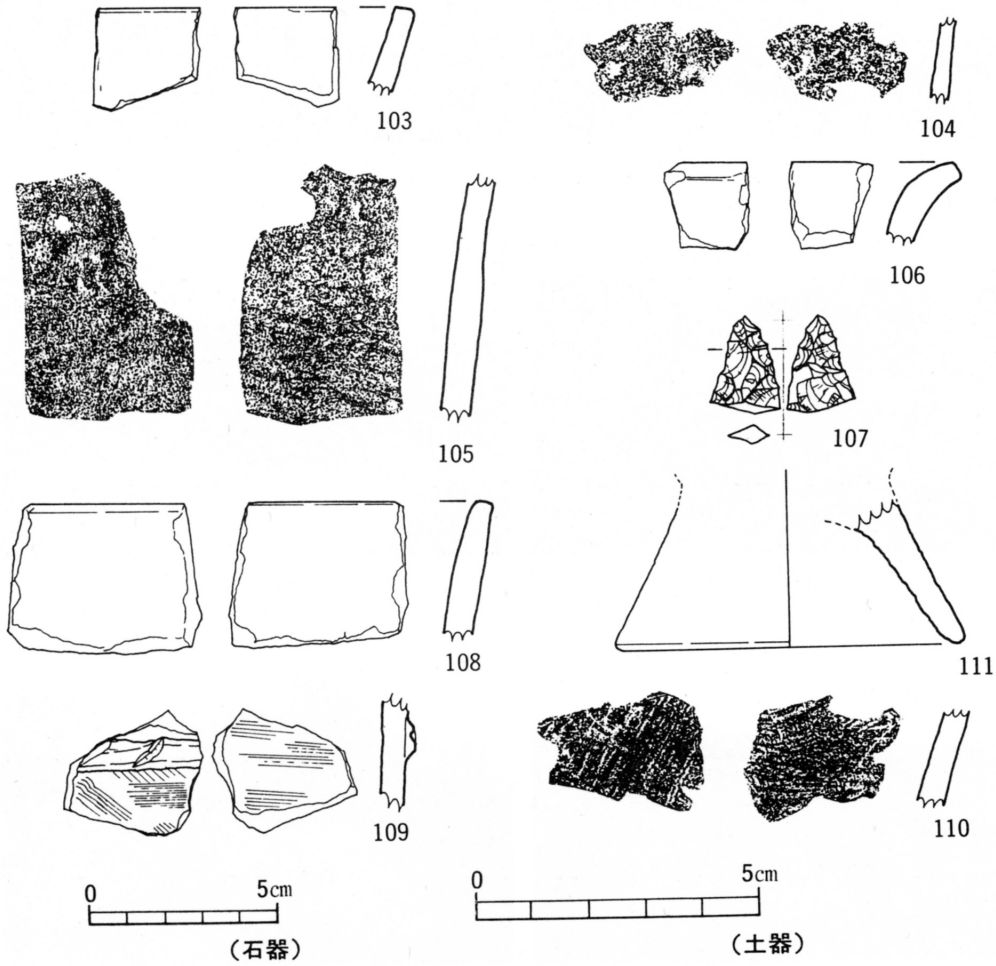
町指定の「香積寺跡」地を包括する畑地の標高約30m強の台地先端部に位置する。南・西側は急崖な地形となり西側に小河川が流れる。成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

17. 山武遺跡（第８図－107・図版11）

鳥丸東集落西はずれ，東側は背後まで山陵がせまり，狭い段々畑が連なる。山陵の先端部の標高約40mの小台地に位置する。107はチャート製で基部が欠損した石鏃である。その他，黒曜石の剥片，成川式土器片が表採された。縄文時代，古墳時代の散布地である。

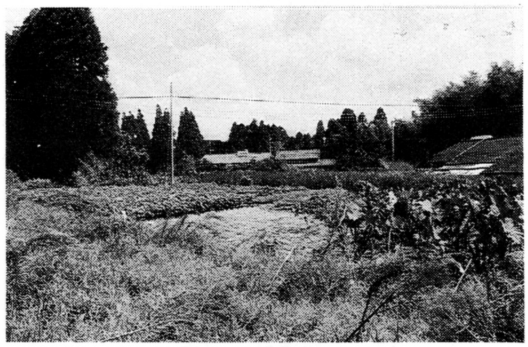
18. 木場遺跡（第８図－108～111・図版11）

鳥丸小学校裏の水田を隔てた，標高約35mの北西に開けた台地先端部に位置する。一段低い北側は田海川が流れる。遺跡の保存状態は良好と言える。108～111は成川式土器片で，109はキザミ凸帯を有する甕形土器の頸部片である。111は甕形土器の底部である。古墳時代の散布地である。



第 8 図　東郷町の遺物 (3)

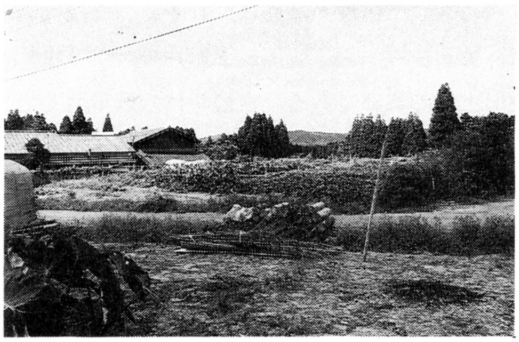
9　川畑遺跡　（北東から）



10　城ヶ原遺跡　（南から）

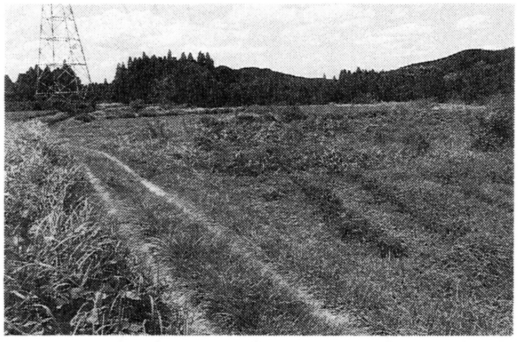
図版 9

図版10



11　城ヶ原Ｂ遺跡　（北から）

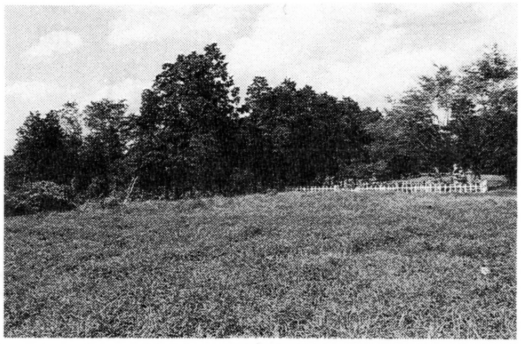
12　前原遺跡　（東から）



13　大牟礼遺跡　（東から）

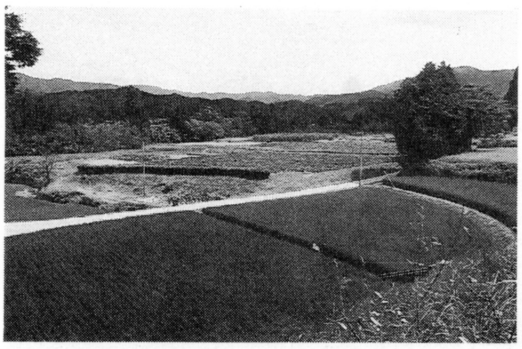
14　坂中遺跡　（北東から）

15　宇都遺跡　（南から）



16　諏訪ヶ原遺跡　（東から）

17　山武遺跡　（東から）



18　木場遺跡　（西から）

第 3 節　鶴　田　町

鶴田町は，鹿児島県の西北部に位置し，東は東郷町，西と南は宮ノ城町，北は大口市，出水市に接している。地勢は，東・北・西の三方は豊かな森林資源としての紫尾山塊に囲まれ，南は次第に低くなり，また，川内川や支流の河川によつて大小様々な峡谷を形成しながら曲流し川内川の支流浦川，前川，柳野川，夜空川の流域には沖積層が発達して水田が開ける。湯田原，永岡原，京塚原の台地は，シラスにおおわれ，畑地となつている。また，この一帯は旧火山群があり，紫尾及び柏原の川口には温泉が湧出している。

鶴田町内の先史時代の遺跡は，47か所と意外と少なく，本格的な遺跡発掘調査は，古墳時代の湯田原古墳や小松原古墳，縄文晩期の埋甕遺構が発見された田間田遺跡の遺跡が報告されている。

今回の分布調査によつて新たに32の遺跡が追加された

第 5 表　鶴田町遺跡地名表（1）

番号	遺　跡　名	所　在　地	地　形	時　　代	遺　　物	備　考
1	原田前	鶴田町柏原	河　岸 段　丘	古墳	成川式土器片	
2	御手水	〃　〃	〃	古墳	〃	
3	上願寺	〃　〃	〃	古墳・中世	黒曜石剥片・成川式土器片・土師器片・青磁片	
4	原田後A	〃　〃	台　地	古墳	成川式土器片	
5	原田後B	〃　〃	台　地 先　端	古墳	黒曜石剥片・成川式土器片	
6	原田A	〃　〃	台　地	古墳	成川式土器片	
7	原田B	〃　〃	〃	縄文・古墳	打製石斧・石鏃・縄文土器片・成川式土器片	
8	樋山	〃　〃	〃	縄文	黒曜石剥片・石鏃・縄文土器片	
9	小松原A	〃　〃	台　地	縄文・古墳・中世	縄文土器片・成川式土器片・青磁片	
10	小松原B	〃　〃	〃	旧石器・縄文・古墳	細石核・細石刃・縄文土器片・成川式土器片	
11	焼堂	〃　〃	〃	縄文・古墳	黒曜石剥片・縄文土器片・成川式土器片	

第6表 鶴田町遺跡地名表(2)

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物	備考
12	永牟田	〃 〃	台地	古墳	打製石斧・黒曜石剥片・弥生土器片	
13	政所A	〃 〃	〃	縄文・古墳	石斧・磨石・縄文土器片・成川式土器片	
14	政所B	〃 〃	〃	縄文・古墳	黒曜石剥片・縄文土器片・成川式土器片	
15	政所C	〃 〃	〃	古墳	成川式土器片	
16	水天向	〃 〃	自然堤防	古墳	黒曜石剥片・成川式土器片	
17	前畠	〃 紫尾	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・縄文土器片・成川式土器片	
18	王子野	〃 〃	山裾	縄文・古墳	〃	
19	長迫	〃 柏原	〃	縄文・古墳	縄文土器片・成川式土器片	
20	長山	〃 〃	台地	縄文・古墳	石鏃・縄文土器片・成川式土器片	
21	加治山	〃 〃	〃	古墳	成川式土器片	
22	諏訪原	〃 〃	〃	縄文～古墳	黒曜石剥片・縄文土器片・成川式土器片	
23	頭無	〃 〃	〃	縄文・古墳	スクレイパー・成川式土器片	
24	木場田	〃 〃	〃	古墳	成川式土器片	
25	東原	〃 〃	〃	縄文・古墳	縄文土器片・土師器片	
26	宮ノ下	〃 〃	〃	古墳	成川式土器片	
27	小山	〃 神子	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・縄文土器片・成川式土器片	
28	石橋段	〃 〃	河岸段丘	古墳	成川式土器片	
29	下湯田原	〃 〃	〃	古墳	〃	
30	上原	〃 鶴田	台地	古墳	成川式土器片・須恵器	
31	大角原	〃 〃	〃	縄文・古墳	黒曜石剥片・縄文土器片・成川式土器片	
32	枕辺	〃 〃	〃	縄文・古墳	縄文土器片・成川式土器片・土師器片	

1．**原田前遺跡**（図版12）

宮ノ城町との町境に近い，標高約50mの国道267号線の西側台地中程の畑地に所在する。

成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

2．**御手水遺跡**（図版12）

国道267号添いの，北東に延びた舌状台地，標高約55mの東側に面した台地先端部に所在する。東側は，川内川の浸食作用によつて比高約30mの急崖となる。近年，周辺は宅地化が進みつつある。遺物には成川式土器，土師器，青磁の小破片や黒曜石剥片がある。古墳時代の散布地である。

3．**上願寺遺跡**（第50図－112・図版12）

県指定「大願寺墓石群」が所在する標高約45mで台地**縁**辺部の東面の畑地に所在する。採集遺物には成川式土器片，土師器片，112の青磁片，黒曜石剥片がある。古墳時代，中世の散布地である。

4．**原田後Ａ遺跡**（第10図－113・図版12）

南に延びた標高約62mの台地の中程に所在し，東・西・南側は凹地状の低地となる。113の成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

5．**原田後Ｂ遺跡**（図版12）

原田後Ａ遺跡の南側の台地先端部に所在し，原田後Ａ遺跡の範囲に含まれる可能性もある。成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

6．**原田Ａ遺跡**（図版12）

標高約50mの東に開けた台地に所在する。周囲は凹地状の低地に水田耕作地となる。成川式土器片を採集した。古墳時代の散布地である。

7．**原田Ｂ遺跡**（第10図－114～115・図版12）

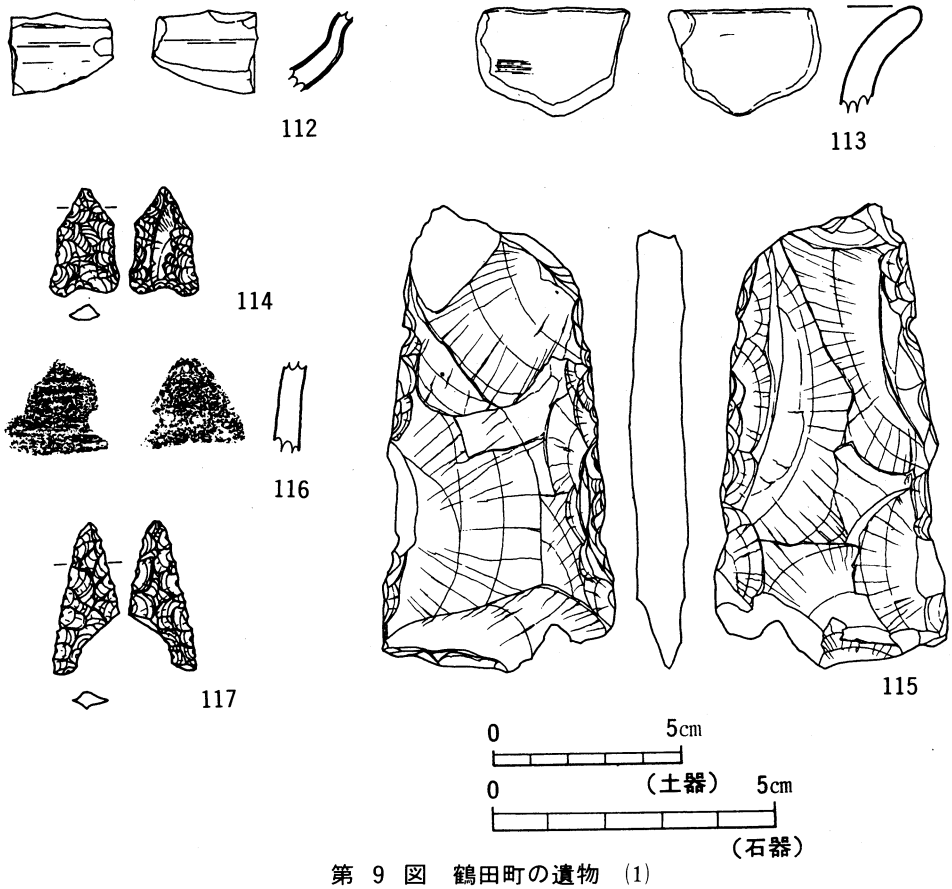
原田Ａ遺跡の西側に所在し，北側は凹地状の低地となり，南側は緩やかに傾斜する台地先端部，東側で原田Ａ遺跡へと続く。表採資料としては，縄文土器片，成川式土器片や114の黒曜石製の基部に浅い扶りを施す五角形石鏃，115の砂岩製の先端部が欠損する打製石斧がある。縄文時代，古墳時代の散布地である。

8　**樋山遺跡**（第10図－116～117・図版12）

標高約60mで，県道紫尾～虎居線が台地中央部を縦断し，台地中央部から西側**縁**辺部にかけて広がる遺跡である。西側は，小谷が形成され谷川が南流する。表採資料としては，116の縄文土器片や，117のチャート製で片方が欠損した脚を有する二等辺鏃がある。縄文時代の散布地である。 近年，当遺跡の周辺は，宅地化が進みつつある。

9．**小松原Ａ遺跡**（図版13）

標高約70m前後で台地の北東部**縁**辺部に位置する。北・東側は小谷が入りこみ，比高約10数mで水田地帯となる。表採資料としては，縄文土器片や成川式土器片，青磁片がある。縄文時



第 9 図　鶴田町の遺物 (1)

代，古墳時代，中世の散布地である。

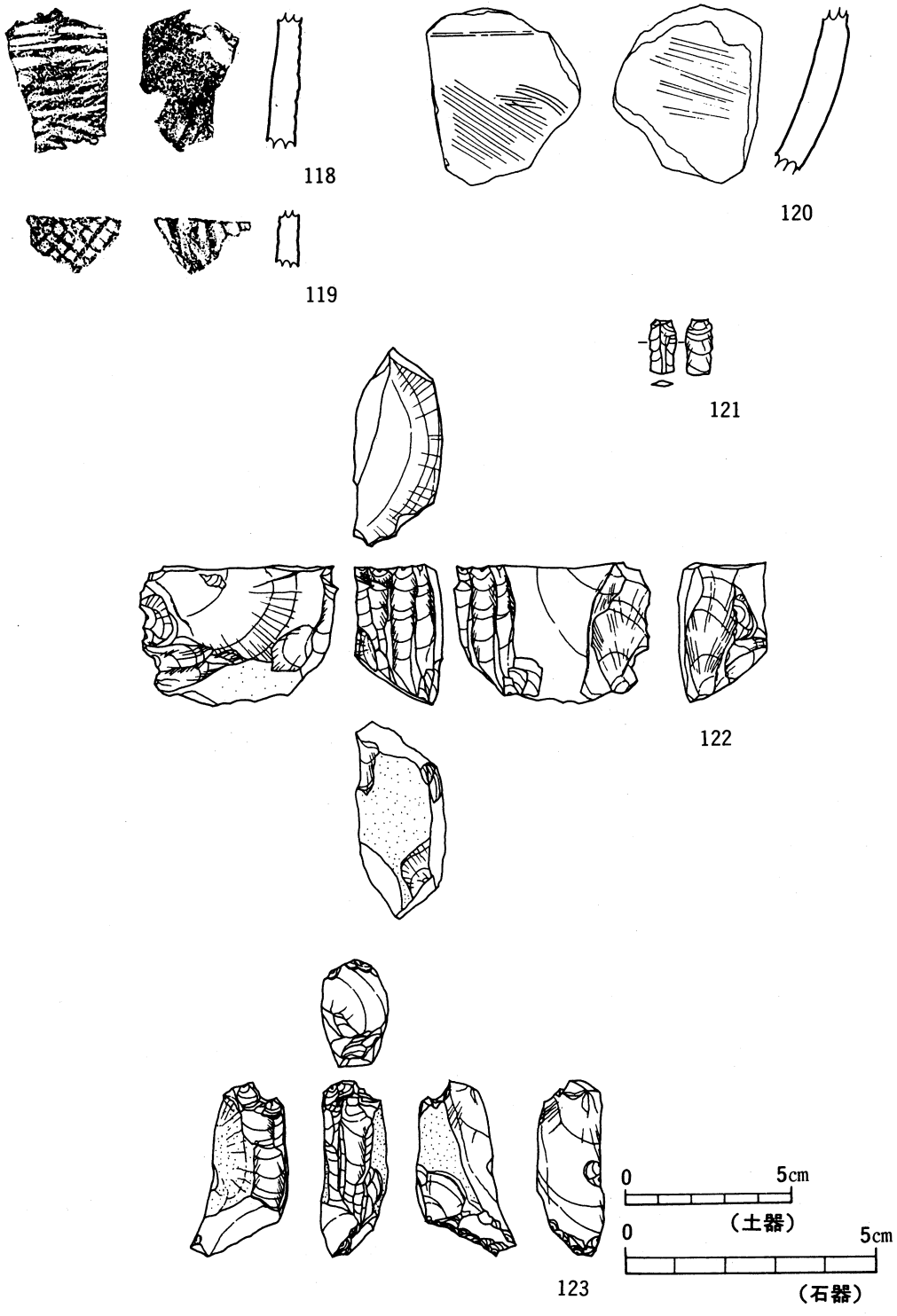
10. 小松原Ｂ遺跡（第10図－118～123・図版13）

小松原Ａ遺跡から北西の方向にあり，県道紫尾～虎居線沿いの小松原古墳が所在する台地の北側の畑地に位置する。118・119は須恵器片で，118は平行，119は格子のタタキがみられる。120は成川式土器片，121は細石刃，122は船野あるいは加治屋園タイプ類似の細石核である。123は作業面調整がみられる剥片石器で，いずれも黒曜石を礎材とするものである。全体的に遺跡は広範囲にわたるものと思われる。

なお，小松原古墳は，「地下式板石積石室墳」と呼ばれる古墳で，昭和48年に工事中に発見され，町史編纂事業の一貫として昭和52年上村俊雄氏等によつて，７基が発掘調査され，人骨や柳葉式・圭頭式鉄鏃等が出土した。時期は，５世紀後半から６世紀前半のものと考えられている。旧石器時代，縄文時代，古墳時代の散布地である。

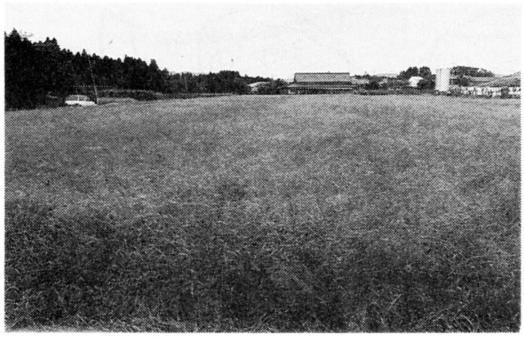
11. 焼堂遺跡（第11図－124～126・図版13）

小松原Ｂ遺跡より県道紫尾～虎居線を挟んで，北西部の小田原古墳や京塚原古墳が所在する標高80m前後の台地に位置する。124～126の成川式土器片をはじめ，黒曜石の剥片，縄文土器片等を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

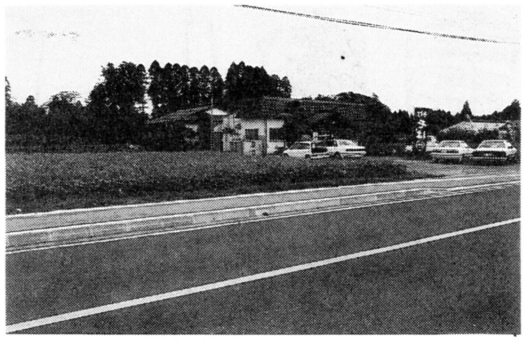


第 10 図　鶴田町の遺物 (2)

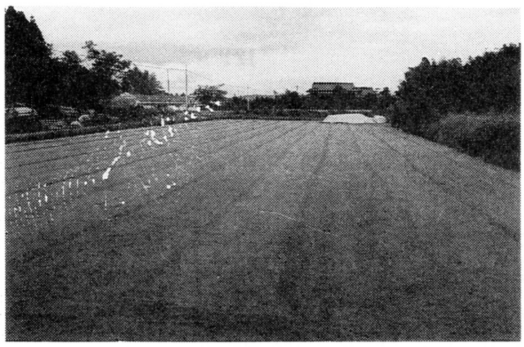
図版11



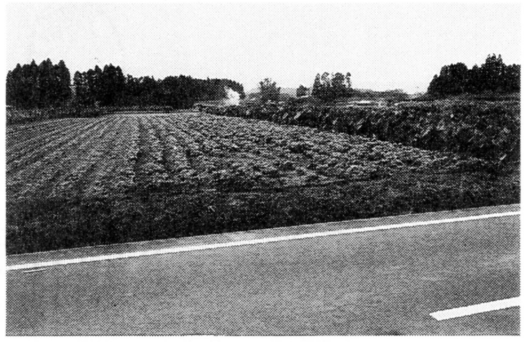
1　原田前遺跡　（東から）



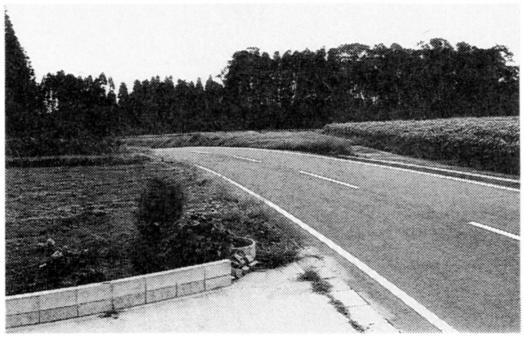
2　御手水遺跡　（西から）



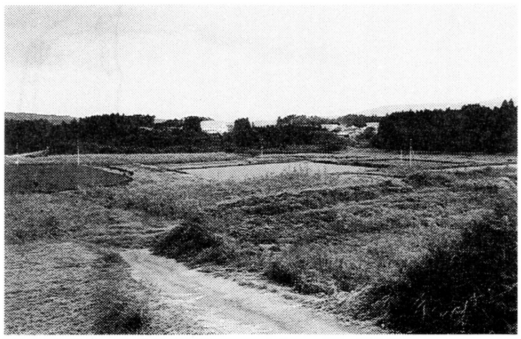
3　上願寺遺跡　（南西から）



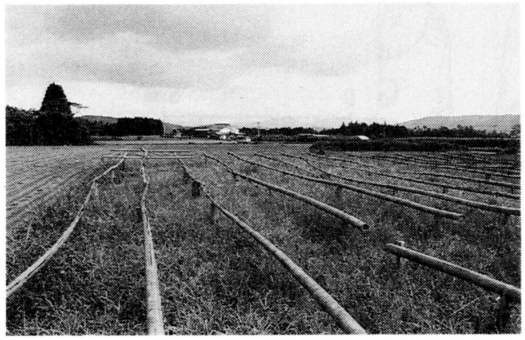
4　原田後Ａ遺跡　（東から）



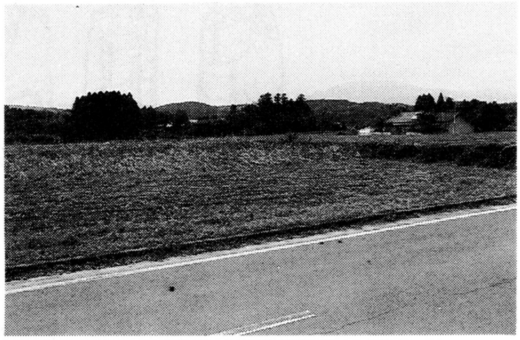
5　原田後Ｂ遺跡　（北東から）



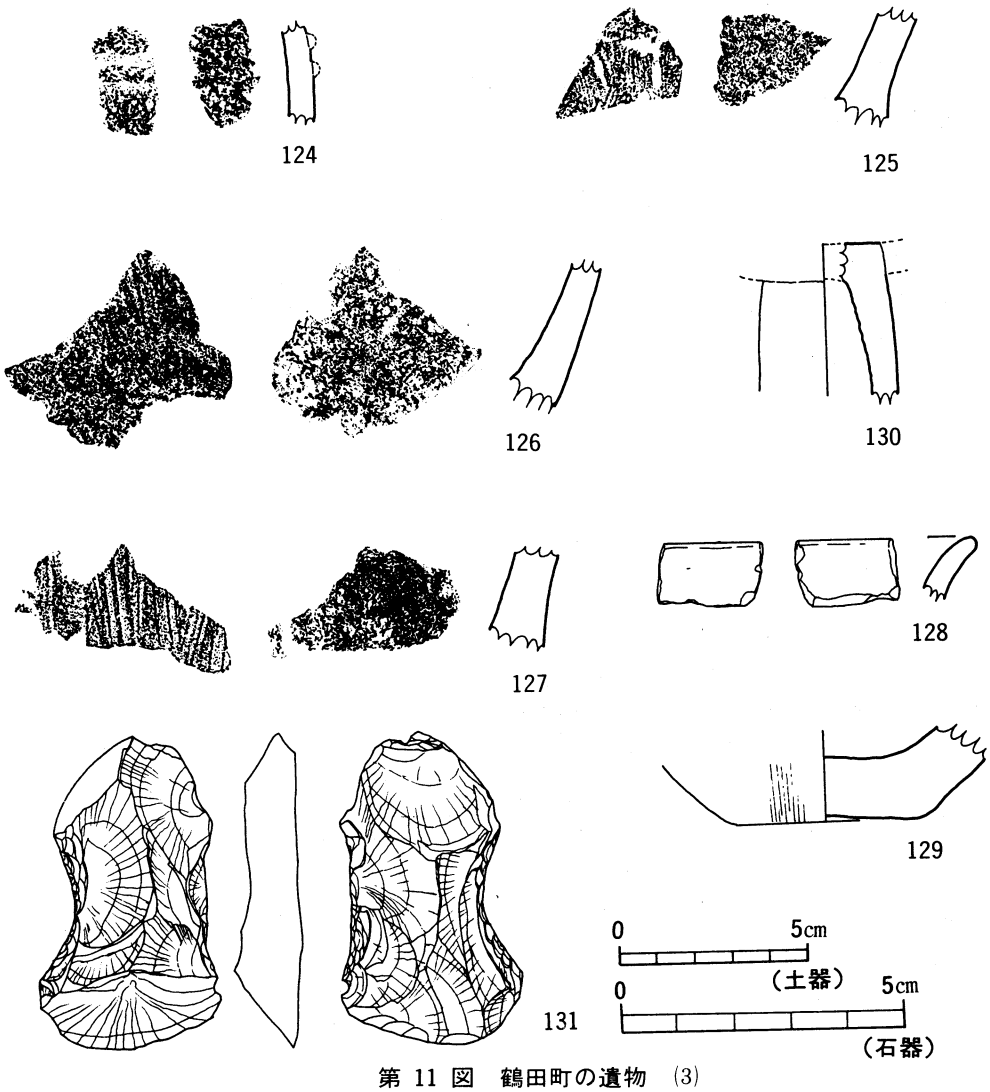
6　原田Ａ遺跡　（南から）



7　原田Ｂ遺跡　（西から）



8　樋山遺跡　（東から）



第 11 図　鶴田町の遺物　(3)

12. 永牟田遺跡（第11図－127～131・図版13）

標高約76mで北側に後背地を持つ台地基部の畑地に位置する。127・128は成川式土器片，129は，わずかに上げ底を呈する弥生相当の底部や130の高杯の脚部，131の砂岩製の打製石斧を表採した。遺跡は広範囲にわたるものと思われる。古墳時代の散布地である。

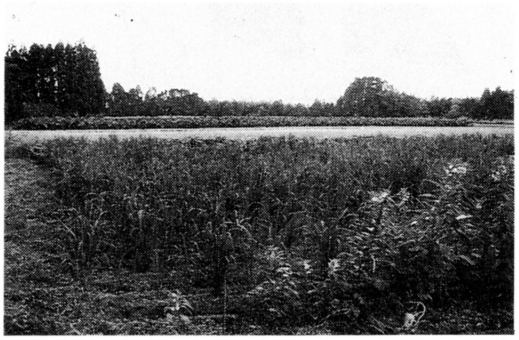
13. 政所Ａ遺跡（第12図－132～135・図版13）

標高約70mの緩やかに南に傾斜した畑地に所在する。132は成川式土器の甕形土器の口縁部片，134は主要剥離面を残し，浅い抉りを有す打製石斧，135は磨石及びタタキ石である。その他，縄文式土器片も表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

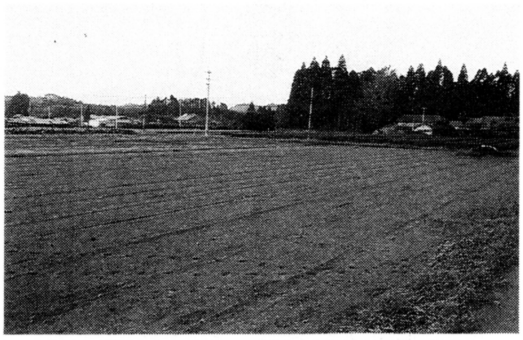
14. 政所Ｂ遺跡（図版13）

国道328号線沿いの政所Ａ遺跡の南側に位置する。表採遺物には，縄文土器片・成川式土器

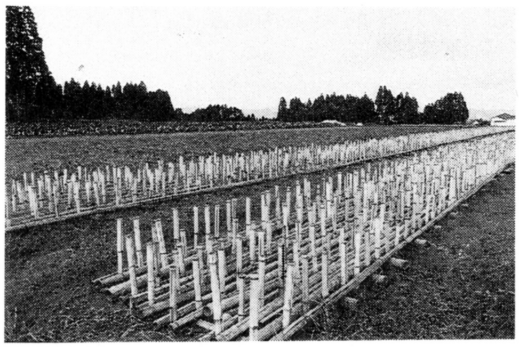
図版12



9　小松原Ａ遺跡　（南東から）

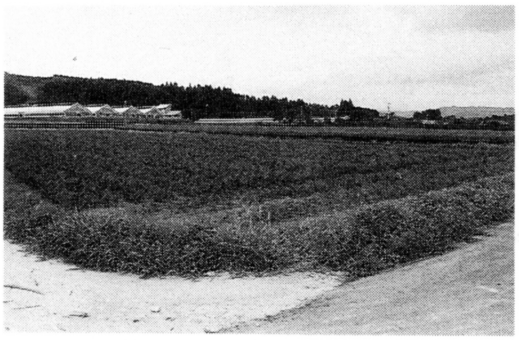


10　小松原遺跡　（南東から）

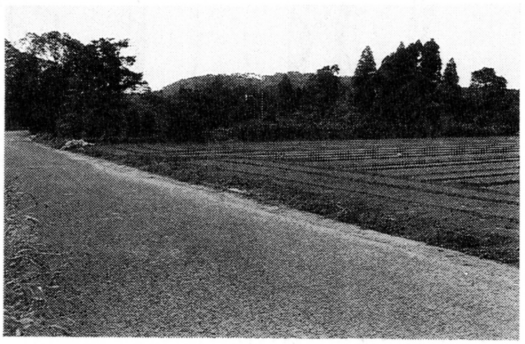


11　烘堂遺跡　（南西から）

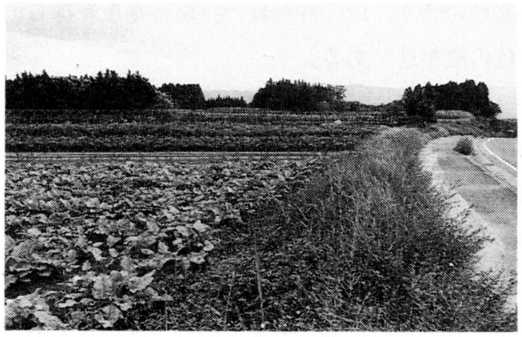
12　永牟田遺跡　（東から）



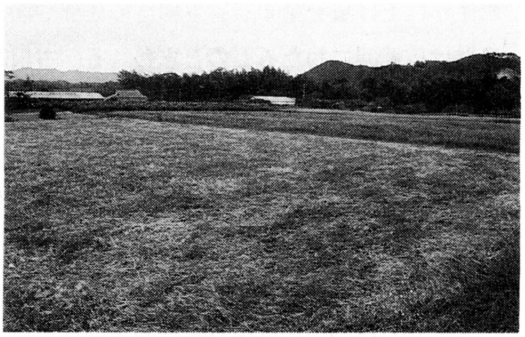
13　政所Ａ遺跡　（南から）



14　政所Ｂ遺跡　（北東から）



15　政所Ｃ遺跡　（西から）



16　水天向遺跡　（南から）

片・黒曜石剥片があつた。

政所A遺跡，政所B遺跡の北東・東側には，浅い小谷が幾重にも形成され狭い水田となつている。なお，両遺跡からの遺物の散布状況から，A・B２つの遺跡として区別したが，距離的にも近い関係にあり，同一遺跡として取り扱うことも可能か。縄文時代，古墳時代の散布地である。

15. 政所C遺跡（第12図－136～137・図版13）

国道328号線沿いの標高約110mの独立した丘陵頂部に所在する。北・東・南側は，小谷が幾重にも形成され，西側は，国道328号線を隔てて急崖となる。136・137は刻み目突帯を有する成川式土器片である。古墳時代の散布地である。

16. 水天向遺跡（図版13）

川内川が大きく右にカーブした標高約32mの河岸段丘の沖積地に所在する。全体的にシラスや砂層からなる。成川式土器片，黒曜石剥片を表採した。古墳時代の散布地である。

17. 前畠遺跡（図版14）

紫尾山へ通じる紫尾小学校の南側，小路集落内の屋敷畑の狭い台地に所在する。遺物散布の範囲も狭く，縄文式土器片，成川式土器片，黒曜石剥片を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

18. 王子野遺跡（第12図－138・図版14）

標高約90mの東に面した山裾の狭い段々畑の屋敷畑に所在する。遺跡の後背まで山裾が迫っている。縄文土器片や138の成川式土器片，黒曜石剥片を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

19. 永迫遺跡（第12図－139・図版14）

種子田集落内の標高約80mの山裾の現在桑畑に所在する。139は口縁直下に刻目突帯を有す成川式土器の甕形土器片である。その他，縄文土器片を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

20. 長山遺跡（第12図－140～142・図版14）

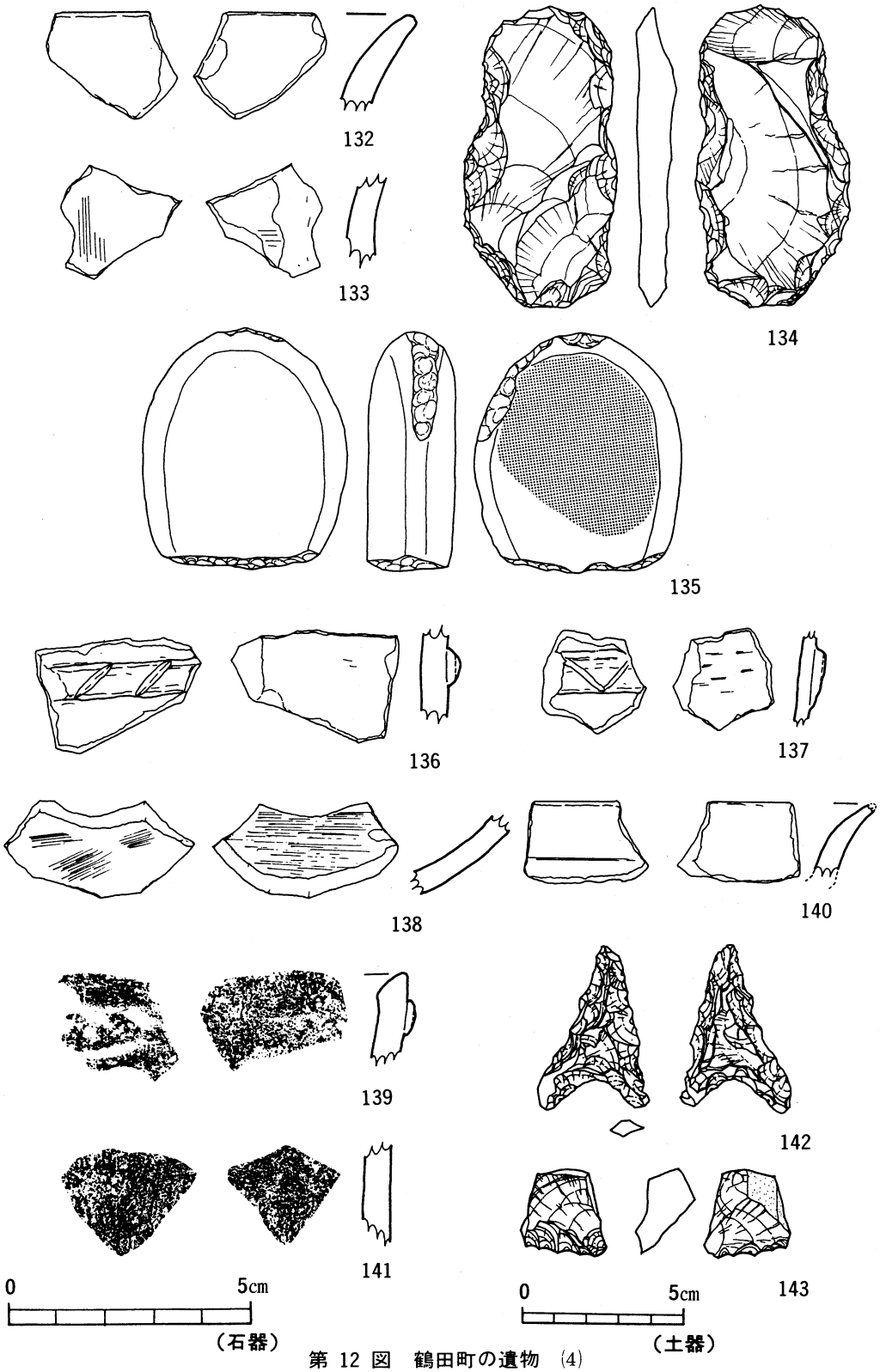
南に延びた標高約70mの舌状台地に位置し，東は小河川が，西は小谷となる。表採資料には140・141の成川式土器片や142の頁岩製で抉りを有する石鏃，その他，縄文式土器がある。縄文時代，古墳時代の散布地である。

21. 加治山遺跡（図版14）

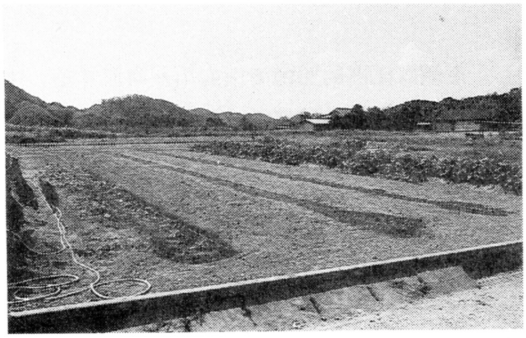
西・南側の水田地帯との比高約30mの標高約60mで，南に延びた舌状台地の先端部に所在する。成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

22. 諏訪原遺跡（図版14）

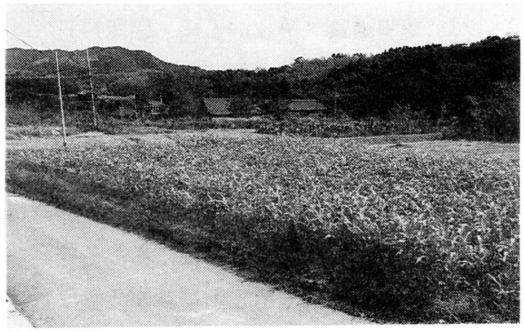
加治山遺跡の北西，標高約65mの舌状台地の基部にあたる。西側は谷川によつて浸食を受け崖となる。縄文土器片，成川式土器片，黒曜石剥片を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地



第 12 図　鶴田町の遺物 (4)



17　前　畠　遺　跡　（北から）

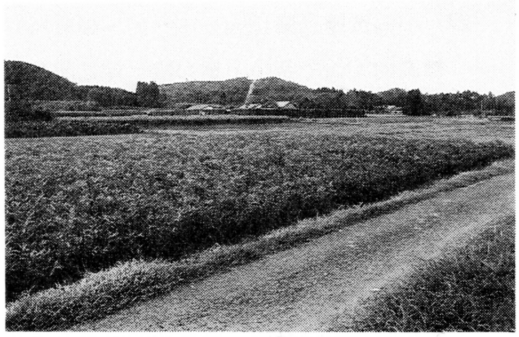


18　王子野遺跡　（南西から）

19　永迫遺跡　（西から）

20　長山遺跡　（北から）

21　加治山遺跡　（西から）



22　諏訪原遺跡　（北東から）

23　頭無遺跡　（南西から）

24　木場田遺跡　（南東から）

23. 頭無遺跡（第12図－143・図版14）

標高約60mの東に面した台地縁辺部に位置し，東側は比高約30mで川内川が南流する。143は，黒曜石製の剥片石器である。その他，成川式土器片を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

24. 木場田遺跡（第13図－144～145・図版14）

南東に延びた台地の基部にあたる標高約70mの畑地に所在する。東側には川内川が南流し，西側は小谷を隔てて長山遺跡が位置する。表採資料には，144・145の成川式土器片があり，刷毛目，篦調整が施されている。古墳時代の散布地である。

25. 東原遺跡（図版15）

北側は後背まで山が迫り，南に開析した標高約75mの山裾の畑地に所在する。縄文土器片，土師器片を表採した。19・20・21・22・23・24・25の遺跡が立地する柏原地区は，南東に延びた標高65m前後の台地で，一段低い西・南側は水田地帯，東側には川内川が南流する。台地縁辺部は，浸食作用によつて小谷が幾重にも形成されている。遺跡の立地としては，台地縁辺部に点在している。縄文時代，古墳時代の散布地である。

26. 宮ノ下遺跡（図版15）

柏原台地南側の，川内川によつて形成された一段低い標高約40mの河岸段丘の諏訪ノ下集落内の屋敷畑に所在する。資料としては，古墳時代の成川式土器片を表採した。古墳時代の散布地である。

27. 小山遺跡（第13図－146～147・図版15）

標高約80mで狭い山裾の段々畑に所在する。146・147の成川式土器片をはじめ，縄文式土器片や黒曜石剥片を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

28. 石橋段遺跡（第13図－148・図版15）

北側の川内川を挟んで，小山遺跡が対岸に位置する宮ノ城町との町境，標高約70mの台地北側縁辺部に所在する。148は成川式土器片である。古墳時代の散布地である。

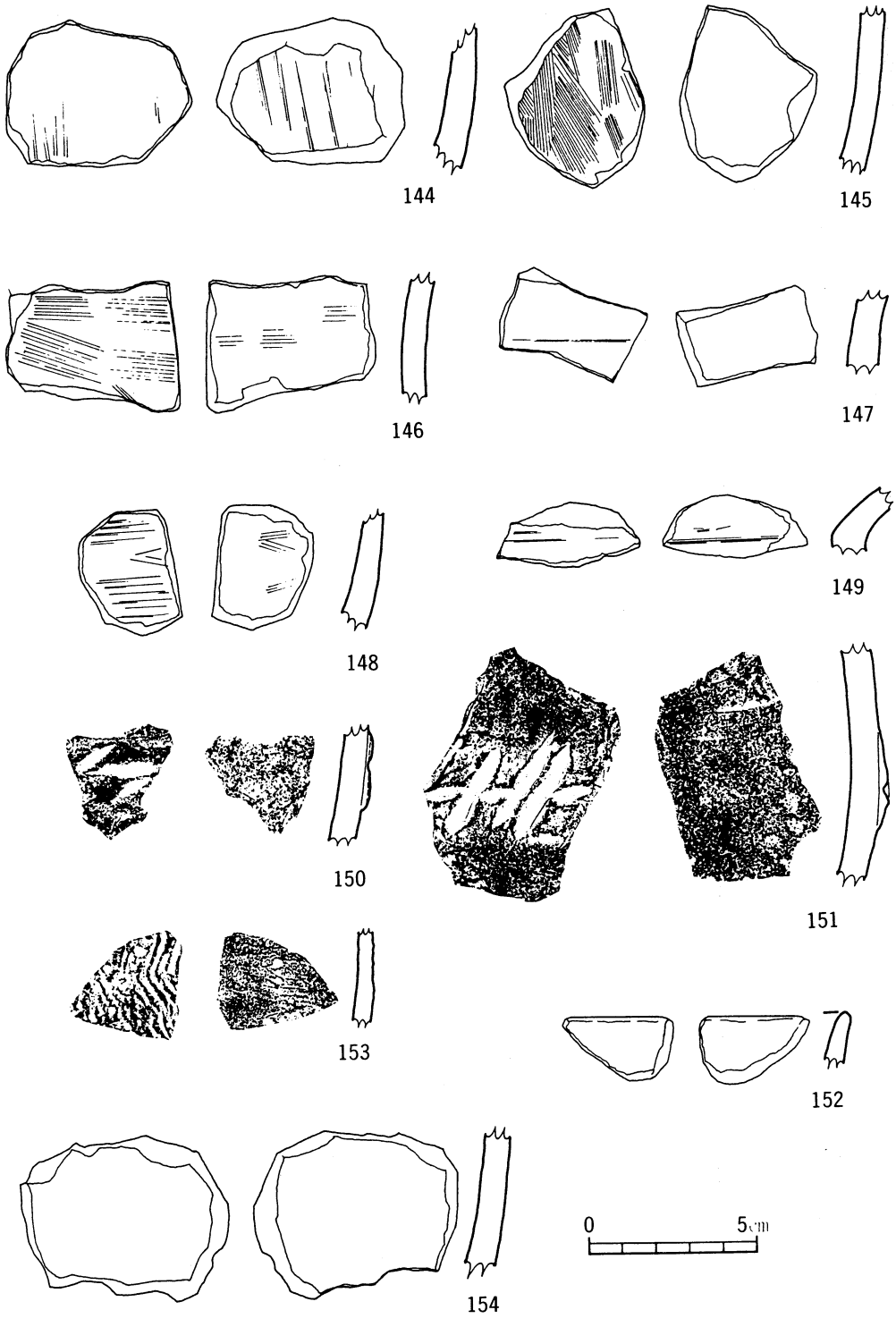
29. 下湯田原遺跡（第13図－149・図版15）

鶴田町役場の北側，標高約90mの台地北側縁辺部に所在する。149は縄文早期の土器片である。その他，成川式土器片も表採した。古墳時代の散布地である。

30. 上原遺跡（第13図－150～153・図版15）

付近一帯は通称湯田原と呼ばれ，川内川を北西方向にのぞむ標高約90mに所在し，なだらかで広い台地となる。採集遺物は，150・151の刻み目突帯を有す成川式土器片をはじめ，153の山形のタタキを施す須恵器片を表採した。なお，台地東側の広範囲にわたつて遺物が分布し，遺跡の保存も良好と思われる。古墳時代の散在地である。

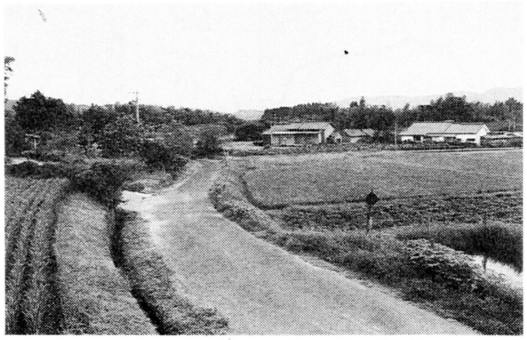
なお，当遺跡地内には，「湯田原古墳」が存在している。同古墳は，昭和31年原口正三氏によつて円墳としての指摘がなされ，町史編纂事業の一貫として，昭和53年に上村俊雄氏等によって発堀調査が行なわれ，鉄刀・鉄剣・鉄鏃等が出土した。時期は５世紀代中頃に推定されて



第 13 図　鶴田町の遺物 (5)

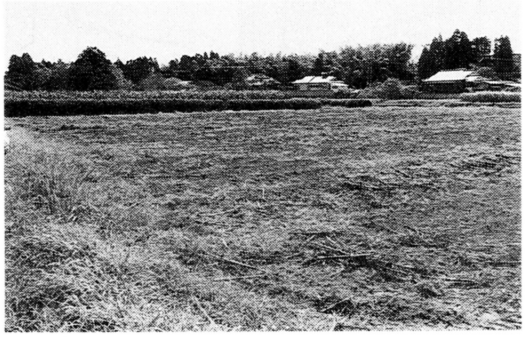
図版14

25　東原遺跡　（南東から）

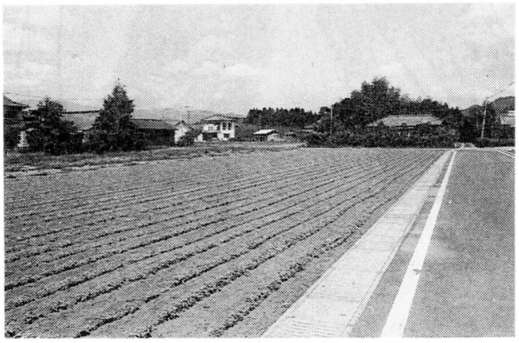


26　宮ノ下遺跡　（北西から）

27　小山遺跡　（北から）

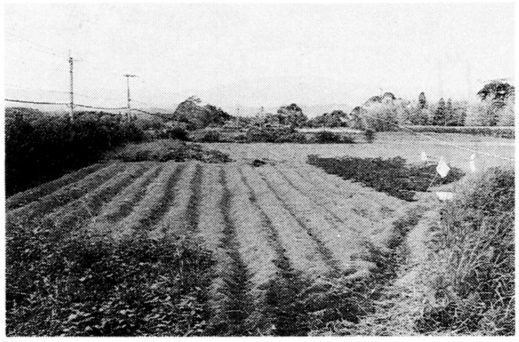


28　石橋段遺跡　（西から）

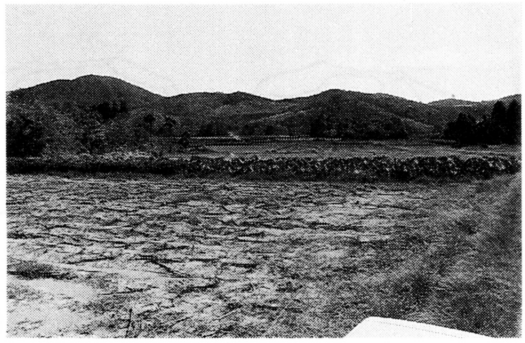


29　下湯田原遺跡　（南東から）

30　上原遺跡　（西から）



31　大角原遺跡　（東から）



32　枕辺遺跡　（南西から）

いる。特に，封土をもつ板石積石室古墳であることから，極めて稀な形態であり，地下式板石積石室墳の上部施設の問題解決に一石を投じた。

31. 大角原遺跡（図版15）

標高約119mの丘陵頂部に所在する。北側は急な傾斜面となる。縄文土器片，成川式土器片，黒曜石剥片を表採した。縄文時代，古墳時代の散布地である。

32. 枕辺遺跡（第13図－154・図版15）

標高約108mで，ほぼ東西に細長い独立した台地に所在する。北，南，西側は急崖となり，西側は川内川と接する。154は成川式土器片で，その他，縄文土器片，黒曜石剥片を台地一面から表採した。遺物の散布状況や地形から，遺跡の保存も良好なものと思われる。縄文時代，古墳時代の散布地である。

あ と が き

真夏の暑い時期に，それも各町の社会教育課の最も多忙の夏休みの時期に重なり，各町の社会教育課の皆様には色々と御協力を戴き感謝しています。炎天下に畑を歩き回る調査で，肉体の疲労は激しいものにもかかわらず，付き合ってくださった文化財担当の方々には御迷惑をかけました。とくに樋脇町の岩下さんには，現場事務所の設置から作業員さんの手配と，分布調査はもちろん，休日にも文化財に関心をもつて，情報を提供して戴きました。もつとも畑地の面積が大きかつたのも樋脇町でした。

「よくこんなところまで」と思われるぐらい開かれた耕地に感心し，東郷町のぶどう園には気を使い，特に水田の荒れには時勢を感じさせられました。強い日差しの中で，木陰での一服とカブト虫やクワガタ虫等との出会いが楽しみでした。農作物についての知見も広がり，よく学習させてもらいました。

分布調査の成果は大きく，新たに104か所の遺跡が見つかりました。その必要性を再確認するとともに，調査による地元の方々との触れ合いが，文化財への啓発につながつたのではと少なからず思つているしだいです。

調査にあたつては，樋脇町教育委員会の北山正信社会教育課長，岩下満志主事，調査期間における遺物整理作業に従事した平山祥子，東郷町教育委員会の竹之下守社会教育課長，日高正道社会教育主事，鶴田町教育委員会の田淵隆之社会教育課長，關正勝社会教育指導員をはじめ，整理作業にご協力いただいた喜入カツコ，川畑明子，岩城加代子，徳永郁代，久山七代の皆様にお礼申し上げます。（敬称略）

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (65)
北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書 (II)
発行日　平成５年３月
発行者　鹿児島県教育委員会　〒892鹿児島市山下町14－50
印刷所　㈲ オーム社
住　所　鹿児島市荒田二丁目61－8　☎ 53－2518